慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ペリクレスの大工事に就きての社会経済史的考察
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1933
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.27, No.9 (1933. 9) ,p.1183(1)- 1244(62)
JaLC DOI	10.14991/001.19330901-0001
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19330901-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

三田評論

九月號

續福澤全集を讀む　小泉信三
精神異常者は何處に行く　金子準二
福澤先生展覽會を見て　加藤木重教
「續福澤全集」に對する諸家の批評（輯錄）
武藤山治　白柳秀湖　柳田泉　杉山平助
土屋喬雄　下村海南　馬場恒吾
高橋箒庵氏著「箒のあと」　高橋龍雄
ナチスの國から　武村忠雄
塾報、雜報、各地三田會、圖書館記事
動靜、維持會報告

定價　金參拾錢
一年分　金參圓四拾四錢
振替貯金東京一八二〇四番

發行所　東京・芝・三田　慶應義塾

三田學會雜誌　第二十七卷　第九號

ペリクレスの大工事に就きての社會經濟史的考察

高橋誠一郎

建築藝術の最大成果――希臘最大の政治家ペリクレスが雅典に起したる大工事は何等經濟的目的に資することを得ずして、却つて此の偉大なる國家衰微の原因と爲れることを論じたる故ウィリアム・カニンガム（W. Cunningham）、の An Essay on Western Civilization in its Economic Aspects, 1898. 中に於ける所論は、爾後、幾多の史家により引用せられ、而して或る程度まで是認せられたる所なり。牛津のアルフレッド・ヂンマーン（Alfred Zimmern）は、經濟的及び政治的見地よりすれば、這般の批判は正當にして、ペリクレス其の人と雖も、之れを是認せざるを得ざる可しと做せり。（The Greek Commonwealth, Politics & Economics in Fifth-Century Athens, 5th ed., 1931, p. 413.）。而も吾人を以つて觀れば、ペリクレスの大工事は、種族的國家の崩壞、都市的國家の發生以後に於ける

農業及び工業の分離が、人民の多數をして土地を離れて工業に衣食するものたらしめ、之れに從事する者をして社會上重要の地位に立たしめたるに拘らず、而も遂に大規模の生産を發達せしむること能はざりし雅典社會の必然的産物なり。此の民主的大政治家は恐らく此の道の外、他に選ぶ可きものなくして、之れに就けるものなる可し。吾人は此の小論文に於いて聊か希臘、殊に雅典の社會經濟史的考察を行ひ、以つて此の點を明かならしめんことを期す。

一

トロヤ戰役前の時代に於いては、希臘本土は、便宜上アカエア人（Ἀχαιοί）の名を適用せらるゝを得可き人民によつて占領せられたり。彼れ等は種族的紐によつて結合せられ、其の發達を種族的國家より始めたり。彼れ等は王若しくは指揮者の支配を承認し、而して各家長は其の家族を支配せり。然るに吾人はホメーロスの詩篇よりして、紀元前第十二世紀より同第八世紀末に亙りて希臘人が家族經濟組織より都市經濟組織に移れるの事實を窺知するを得可し。氏族若しくは家族（Γένος）は始めは廣大なる集團にして、同一の神雄を共同の祖先として有することを主張する總べての者は同一の爐邊に結合するの風を持續せり。トロヤ最後の王にしてホメーロスの詩篇中、唯一の一夫多妻者たるプリアモス（Πρίαμος）の五十人の男子と十二人の女子とは、ヘクトル（Ἕκτωρ）とパリス（Πάρις）とを除き、結婚後猶ほ其の父の家内に同居せり。（Iliad., vi, 244 ; xxiv, 495.）。家族團體は都市に對して義務を有したるも、而も之れを構成しつゝある個人は獨り家族團體に依賴せるに過ぎず。家族團體は其の自治權を維持し、自己の首長と自己の禮拜と自己の行政と自己の司法とを有せり。斯くの如き政治的獨立は獨り經濟的獨立を俟つて可能なるものなり。森林及び牧場は、總べてに共同なるも、家族は自己に屬する地所を有せざる可らず。家屋を共にし、食卓を同じうする者は不可讓不可分なる共同世襲財産を保持せり。共有財産に衣食する者は總べて共同の仕事を助成するの義務を嚴守せざる可らず。之れを拒む者は共同體によつて呪逐せらる。

氏族より離れて、部族及び種族（φρήτρη 及び φῦλον）ありと雖も、是れ等のものは既にホメーロスに在りては單に軍隊的區分として現はるゝに過ぎず。希臘人がトロヤ人と戰ふが爲めに集合せる時、彼れ等は是れ等の部族及び種族によりて組織せられたり。（Il., ii. 362.）。而して有史時代に於ける雅典の軍隊組織は亦、種族別に依るものなりき。ホメーロス時代の社會に在りては、軍隊組織は政治組織を基礎とするものにして、部族は生命及び財産の擁護を目的とする組織に發達せる共同の宗教的儀式によりて結合せられたる集團より成れるものなる可し。（Robert J. Bonner and Gertrude Smith, The Administration of Justice from Homer to Aristotle 1930, pp. 1-2.）。

市邦即ち都市的國家（πόλις）は其の後に於ける希臘共同生活の發達にして、種族の弛緩なる聚合より發生せるものなり。ホメーロス時代に於ける希臘人の生活は元と田園に存せりと雖も、而も此の時代に於いて希臘人は既に町（ἄστυ）及び市（πόλις）に生活するに至れり。而して封鎖的家族經濟は都市の存在を通じて、急速なる變革を蒙る可き運命を有せり。家族が共同團體として立ち、家族各員相互の援助が、あらゆる個人の所要を殆んど完全に滿足せしめ得たる時代は過ぎて、社會的及び經濟的全一は解離し、家族共同體は最早一切の利益を包含すること能はざ

るに至り、而して當初は單に偶發的事實として行はれたるのみにして、未だ自足自給の經濟生活を動すに足らざりし經濟的交易が次第に其の重要の程度を增加するに連れて、先きには單に種族及び家族の政治的聯合に過ぎざりし「市」は爰に總べての者が相會して互に其の欲望を滿足せしめ得可き中心を有するに至れり。（昭和四年版拙著「經濟學前史」三九―四一頁參照）。

ツキュディデス（Θουκυδίδης）は種族的生活の猶ほ殘存せるものより推究して、希臘全般の原始的狀態を描寫せんとせり。今、ヘラス（Ἑλλάς）と稱せらるゝ國土は古に在りては、何等定住の民を有することなく、移住頻々として起り、諸種族は人口過多の壓迫を蒙りて敏速に居住の地を見棄てたり。商取引存することなく、又海陸共に安んじて相互に交通するの自由存することなく、何等の富の過剩、即ち資本を有することなく、嘗つて彼れ等の地所に栽培を行ふことなく、生活の急迫を免るゝが爲めに必要なる以上に彼れ等の領土を使用することなく（蓋し彼れ等は何時侵略者が襲來して悉く之れを奪ひ去ることなきを保し難く、而して其の襲來を受くる時は、之れを防禦す可き城壁を有せざればなり）、而して彼れ等は何れの地に於いても其の日々の糊口の必要品を取得し得可しと思惟せるが爲めに、彼れ等は殆んど其の住所を移すを厭ふことなく、從つて又、大都市を建設することなく、又何等他の偉大に到達することなかりしなり。（Thuc., I. 2.）。ツキュディデスの時代に於いては、斯くの如く日々の欲望に備ふる以上に殆んど何等求むる所なき小共同體の痕跡はロクリ・オゾォレ（Λοκροὶ Ὀζόλαι）及びエトリア（Αἰτωλία）に於いて看出されたり。（ibid., III. 101, 102, 94.）。

紀元前第六世紀中葉のエリス（Ἦλις）及びアルカディアのヘラエア（Ἡραία）人の同盟條約は、是れ等の兩共同體を「地域」（δῆμοι）と稱せり。而してアルカディアの諸部分は紀元前第五世紀に於いても尙ほ、這般の種族的結合以上に出づることなかりき。斯くの如き社會に於ける政治的生活の單位は κώμη 即ち村落共同體と稱せらる。吾人は村落共同體が常に最高の單位たりしや否やを斷言することを得ずと雖も、而も之れを以つて少くとも獨立の單位と做すの信念は、市邦の起源に關するアリストテレースの所說の基礎を成すものなり。彼れは二個の構成要素より國家を建設せり。即ち彼れに從へば、男性と女性、主人と奴隸との間の兩關係よりして先づ家（οἶκος）を生ず。家は人々の日常の欲望を充足するが爲めに自然に形成せられたる團結なり。次いで幾多の家が結合し、而して其の團結が日常の所要滿足以上のものを企圖するに至りたる時、村（κώμη）を生ず。最後に幾多の村が結合して、完全にして始んど全く自足的なるに充分なる大さの單一共同體を成せる時、國（πόλις）を生ず。アリストテレースは斯くの如く說く。（Pol., I. ii. 前揭拙著一九七―八頁參照）。彼れは此の村落共同體を以つて氏族（γένος）と同一視せるが故に、彼れは家族生活及び此の家族單位の最廣なるもの即ち氏族に、最初の結合形態の基礎を置けるなり。斯くの如きは決して單なる哲學者の抽象的思辨とのみ考ふ可きものに非ざるなり。（A. H. J. Greenidge, A Handbook of Greek Constitutional History, 1920, pp. 12-13.）。

二

雅典が率先して波斯人の侵略を防ぎ、而して其の繁榮を極めたる時代は實に市邦が其の發達の極致に達したる時

代なりき。西紀前第五世紀及び第四世紀の雅典人に取りては、共和的市邦は自然的秩序に屬するの觀ありしなり。アリストテレースは、人は自然に政治的動物なりと做し、（Pol., I. ii. § 6.）、人間は其の最低の階段に於いても、他の幾多の動物と共通なる群居性を有するも、而も、人は市邦の成員たるに非ざれば、彼れに向ひて開かれたる諸般の可能性に到達することなしと思惟せり。一事物眞個の「自然」は其の最粗笨、最低若しくは最初期の階段に於いて看出さる可きに非ずして、其の最精緻、最高なる發達に於いて發見せらる可きものなり。而してアリストテレースに取りては、其の强烈なる政治生活、其の友愛的交際の機會、其の藝術、其の哲學を有する希臘市邦は實に最高の社會組織たりしなり。（「前史」一九七頁）。然れども、幾多の希臘人は、永く、經濟的、地理的、軍事的及び社會的なる種々なる原因が彼れ等をして都市に居住するに至らしめたるの事實、並びに希臘人をして政治的動物たらしめたるものは市邦に於ける生活たるの事實を看過せり。

前述せる同種族の人々は孤立せる家宅に居住することなく、本能的に村落に居住したるも、而も其の村落は何等の形式に於いても政治的單位には非ざりしなる可し。石壁の防禦工事を行ふが爲めには富と勞働とを要す。小村落は柵の外、何等の防禦を有することなし。彼れ等は其の最も貴重なる財産たる家畜の群れをして同族若しくは異邦人による陸海の侵入より安全ならしむが爲めに一定の永續的避難所を要求せり。此の共同の避難所は當然王の居住する場所たるも、家畜及び逃走者の爲めに餘地を存せしむることを要したるが故に、王は初め其の内に居住せずして、其の間近かに居を構へたり。是れ等避難所の多くは單に其の位置のみに信頼し、他のものは疑ひもなく柵を以つて粗糙なる防禦作業を施せるに過ぎざるを以つて、其の根跡の今日に殘存するものなし。吾人は支配者が避難所の側に居住するに至りて、初めて種族的國家の地方的中心を看出すなり。然れども、アカエア人及び東方の範例を歪曲せるミノス文化が認めらるゝに至りたる希臘の諸地方に在りては、恐らく其の側に王の居住を有したる避難所たりしものは、終にミュケーネ若しくはチリュンスに於けるが如き堡壘を築かれたる王城と爲れり。斯くの如き城塞は初めてポリスと稱せられたるものなり。城下には王の扈從、臣下並びに其の周圍の地所を耕作せる農民若しくは隷農の家屋群がれり。希臘人は斯くの如き住宅の集團をアスチイ（ἄστυ）と呼べり。ホメーロスの詩篇に於いては、因襲的語句は猶ほアスチイとポリスの間に區別を設けたり。而も其處此處に古語は亡びて、兩語は交替的に使用し得ることゝなり、「オデュセイア」の一章句中には衞城を意味するの觀あるアクロポリス（ἀκρόπολις）なる語の使用せられたるを見るなり。（Od., VIII, 494, 504.）。然れどもポリスなる語の有する古義は容易に消滅せずして。雅典に於いては、紀元前第四世紀に至るまで、此の語は公式にはアクロポリスを指し、アスチイは人々の居住せる都市と指すものとして使用せられたり。（The Cambridge Ancient History, ed. by J. B. Bury, S. A. Cook and F. E. Adcock, vol. III, The Assyrian Empire, 1925, pp. 687-9.）。

斯くて吾人は希臘の諸地方に於いては、神雄時代に在つて早く既にポリスなる語並びに宮城と城壁を繞らすことなき居住地の結合の存在せることを推定し得るも、而も這般の結合が政治的市民的生活の總べてを吸收する中心たる市邦たるには未だ甚しき距離あるものと觀ざる可らず。王は餘りに重く、庶民は餘りに輕きに過ぎたり。而も確

定的なる政治的中心の觀念は既に生じ、又存續するに至れるなり。斯くの如きは實に希臘の「海賊時代」を以つて終るミュケーネ文化時代より傳はれるものなり。アカエア諸君主の海外遠征はトロヤ戰役に於いて頂點に達したり。而して其の後、相次げる入寇の打擊に由りてミュケーネの秩序は損傷せられ、掠奪隊は避難隊と爲れり。ドリス人並びに彼れ等と共に、又彼れ等の後に來れる北西の人民は舊王政を破壞し、ミュケーネ及び他のミュケーネ文明の中心を燒きて定住するに至れり。彼れ等は良土を略取し、彼れ等の諸王と諸神とに所領（τεμένη）を割り當て、爾餘の土壤を民主的に地區（κλῆροι）に分割せり。アッチカは依然入寇を免れ、而して此の地に於いてはミュケーネ時代よりの發達間斷なく行はれたるも、而もアルカデイアはドリス前のペロポンネソス民に避難所を供給せり。然れどもテッサリア以南の希臘に於ける爾餘の地方に於いては、舊制度は消滅して、種族的國家よりの政治的發達の過程は新たに開始せられたり。（ibid., p. 690.）。

一時、希臘の大部分に於いて都市的國家への政治的發達は阻止せられたり。然れども侵略者は彼れ等自身直ちに都市的國家を構成することなかりしも、彼れ等によつて遂はれたるものゝ間に都市的國家を發達せしめたり。相次げる侵略者入寇の衝擊はドリス先住民を海外に驅逐し、新たなる鄕土を看出すに至らしめたり。エオレス及びイオーネスより成る移住者は、彼れ等が其の新鄕土を看出せる脊地の諸人民の反抗に遭遇せざるを得ざりき。新來者は廣く散布するを得ずして、概して城壁を繞せる小邑の內部若しくは其の近くに密集せざるを得ざりき。ミレートスは衞城と半哩を距てたる原移住地とより成れり。彼れ等は他の人民によりて襲擊せらるゝの危險に驅られたるのみならず、自然的便益を利用し、航海を回避するの必要を認めたり。良港、良水、商人をして長き若しくは危險なる航海を免れしむる地峽上の地位、一定の良好なる商路の出口等は總べて群集する市場を生ぜしめたり。（K. Lehmann-Hartleben, Die antiken Hafenanlagen des Mittelmeeres, 1923, S. 45 sqq.）。是れ等の新社會は阻止的傳統より免れて、第八、七世紀に於ける第二植民の時代以前に於いて都市的國家の觀念を實現せり。（The Cambridge Ancient History, op. cit., pp. 690-1.）。

希臘本土に於ける都市的國家への過程は植民地に於けるよりも更らに遲緩にして、其の原因は更らに複雜なり。恐らく初期古典時代に於ける本土希臘人の半數は依然たる舊村落生活を送りつゝありしなる可し。ペロポンネソス半島に於ける征服的社會が都市若しくは陣營に集中するに至れる主因は、ドリスの征服者が最良地を占領し、各地域に、疑ひもなく其の祖先がミュケーネの諸王及び貴族の衞城に勞作せしめられたる人民の相傳せる技術によつて防禦工事を施されたる堅固なる地點を設けたるの事實に存す。北東ペロポンネソスの最大平原を支配せるアルゴスに次いで、最も重要なる都市はコリントスなり。コリントスの起原が商業に基くことは蓋し疑ひなきが如し。ミュケーネは、今や安全の程度を減じ且つ旅行者に通行稅を賦課す可き諸小邦を通過せる網狀の道路を支配せるが故に、貿易は海路に由ること賢明と爲り、東西並びに北南の通路に置かれたる二重の利益をコリントスに與へたり。ユウボエアの兩市カルキス及びエレトリアの興起は又同種の經濟的原因に基くと共に、人民を集中せる金物細工の發達によりて助成せられたり。（ibid., pp. 691-3.）。

貿易の引力及び征服者の恐怖の外、社會的原因も亦市邦の發達を進むるに資せり。司法の發達は市邦の發達と不可離の關係を有するものなり。市邦發達を助成せる第二原因は戰法の變化なり。市民の密集甲兵隊が貴族の騎兵隊に取つて代れる紀元前第七世紀に至るまでは、交戰は首長の戰ひにして、庶民は殆んど全く重要視せらるゝことなかりき。中層階級の戰鬪、槍手の共同行動に依る新戰法は結合を助成せり。武器の畫一、戰術の畫一は集中せられたる市邦に向つての推移を援助せり。（ibid., pp. 694-6.）（「前史」一五〇―一頁參照）。

三

希臘人の興起が、蠻民の侵略たる性質を失ひて、文化民族の發展たるに至りたる時期を確定するは固より不可能なり。彼れ等は凡そ紀元前第十世紀の交に於いてエーゲ海に於けるフェニキア人の居留地よりフェニキア文字を學べり。一千二百五十年の頃、從來輸入品にして、指輪及び小裝飾品の稀少なる材料たりし鐵は、ホメーロス中に看出さるゝが如く、斧及び手斧の如き利器として使用せらるゝに至り、（Il., xxiii. 834; Od., ix. 391.）、而して漸次一般に使用せらるゝことゝ爲れり。恐らく鎔鐵及び鍛鐵の術はアカェア人（Ἀχαιοί）によりて輸入せられたるものなる可し。ホメーロス詩篇中の英雄が既に施肥の術に慣れたるを以つて推するに（Od., xvii. 298.）、當時の農業は原始的のものに非ずして、集約的性質を有したるが如し。而もホメーロスの詩篇中に於いては貿易は希臘人に關する限りに於いては受動的なるに過ぎず。彼れ等の海上に於ける冒險は恐らく劫掠々奪に限られたるなる可し。（Od., ix. 40; xi. 401; xiv. 85, 262.）。貿易は下賤なるも、海賊は高貴なりと觀ぜられたり。希臘人は裝飾及び實用の爲めに未製及び既製の金屬並びに贅澤なる織物を要したりと雖も、而も彼れ等は農場物產、家畜及び少數の奴隸を除きては、是れ等のものに對して提供す可き物を有することなし。爰に於いて乎、彼れ等は掠奪によりて之れを取得せんとせるなり。

平和的交易の利益が實感せらるゝと共に、人は漸次都市と都市との間を自由に交易することを許さるゝに至る。何等の權利をも有することなき異鄕民によりて享有せられたる特權は、次第に增大しつゝある款待厚遇の習慣に基くものなり。オデュッセウス（Ὀδυσσεύς）の子テレマッコス（Τηλέμαχος）が、家鄕を離れて約二十箇年に及べる其の父の消息を集むるが爲めに、ピロス及びスパルタに赴き、ネストル（Νέστωρ）及びメネラオス（Μενέλαος）によりて厚遇せられ、エトリアのカリュドンの王エーネウス（Οἰνεύς）がベレロフォン（Βελλεροφῶν）を迎へたる時、金瓶と深紅の飾帶とを交換せりと云ふが如きは、幾分這般の消息を傳ふるものと云ふ可し。而も、グロッツの言ふが如く、如何に原始的なる交換方法と雖も、其の實行には、啻だに精神的條件を要するのみならず、又一定の技術的條件を伴はざる可らざること明かなり。交換は秤量及び尺度を要求す。ホメーロス時代の希臘は長さを測るが爲めには手尺（δόχμη）肘尺（πῆχυς）及びプレトロン（πλέθρον）を有し、面積を測るが爲めにはギェス（γύης）及び平方プレトロンを有し、容積を測るが爲めには一日一人の食料たるに十分なる穀物を容るゝコェニックス（χοῖνιξ）を有せり。秤は單に貴重なる資料に對して使用せられたるに過ぎざりしを以つて、タラントン（τάλαντον）なる語は秤の目及び金を以つてする重量の單位を同時に表明せるものなりき。（Gustave Glotz, Ancient Greece at Work.

An Economic History of Greece from the Homeric Period to the Roman Conquest, 1926, pp. 54-55.)。

然れども、諸價値が確定せられ、比較せらる可き方法は如何なりしか。ホメーロスの詩篇に於いては、諸價値は常に牛を以つて表明せられたり。グラウコス（Γλαῦκος）は僅かに牛九頭を價するに過ぎざるディオメーデス（Διομήδης）の眞鍮製の甲冑に代へて牛一百頭を價する其の黄金造りの甲冑一揃を與へたり。（Il., VI. 236.)。仕事の熟練を有する普通の女奴隷は四頭の牛を價するに過ぎざるも、稀れには二十頭を價するものあり。（Il., XXIII. 705; Od., I. 430.)。（「前史」三九、一九一頁參照)。「イリアス」（Ἰλιάς）第二十三編に現れたる力士に與へらる可き一等賞たる三脚器は十二頭と評價せられたり。トロヤを控へて張られたる希臘軍の陣地に到來せるレムノスの葡萄酒の船荷を指揮官等は家畜及び皮革に代へて購へりと傳へらるゝも（Il., VII. 274.)、而も牛は現實に交換に現はるゝことなく、寧ろ諸價格が表示せらる可き標準たりしなる可し。貨物交易は數世紀の間、貨幣の介入なくして持續せられ、而して一般に欲求せらるゝ一定の貨物が單位として使用せられ、其の名辭に於いて他の物品の交換價値が評價せらるゝ正規的組織的物々交換は久しく行はれつゝありしなる可し。

斯くの如き貨物貨幣は可能なりと雖も、而も便宜なるものに非ず。鑄造せられたると否とを問はず、金屬貨幣が其の便宜の點に於いて優れるの事實は早晩必ず承認せられざるを得ず。ドリス人が紀元前第十二世紀の初めに於いて希臘に侵入せる時、彼れ等は舊文明に對して破壞的なりしと雖も、而も亦新文明の種子を齎せり。彼れ等は鐵を使用するの知識を有し、而して其の侵入と共に、希臘に於ける青銅時代は鐵の其れに道を讓れり。ホメーロス時代の希臘に於ける聲價高き武器及び器具は鐵なりき。鐵は重要なる商品にして、紀元前第七世紀の初めに至る二三百年の間ペロポンネソス半島に於ける重要物産通貨たりしこと殆んど疑ひなき所なり。凡そ西紀前六百年、リュコウルゴス（Λυκοῦργος）の名によつて傳はれるスパルタの古法は、啻だに金銀のみならず、銅の如きすら通貨として此の國に導入せらるゝことを禁じたり。單り許容せられたるものは鐵にして、そは金量約一封度四分の三を有する長き棒狀を以つて流通せり。（「前史」一一二頁參照)。ホメーロスの詩篇は又、鐵棒が貴金屬及び家畜と同時に流通せるの事實を擧示せり。

スパルタを除きては、第七世紀の初頭に於いて恐らく這般の鐵貨は、少くとも多額の支拂に於いては、エーヂーナ（Αἴγινα）の銀貨によりて其の地位を奪はるゝに至りしものなる可し。エーヂーナ島の石多き不毛の土壤は、其の移住民をして夙に海事に從事するに至らしめ、斯くて彼れ等は通商の目的を以つて貨幣を鑄造せる最初のものと稱せらるゝに至れり。（cf., Sir W. Ridgeway, The Origin of Metallic Currency and Weight Standards, 1892, p. 216.)。（而も希臘の傳說に從へば、鑄貨はリュデイアより誘入せられたるものと想像せらる。Herodotus, I. 94.）埃及人の間には毫も自國の鑄貨存したるの觀なく、フェニキア人も亦、此の點に於いてはエーゲ海の諸人民に先鞭を着けたるの形跡なし)。歐羅巴に於いて初めて貨幣を鑄造せるものは希臘の行商人たるエーヂーナ島民にして、彼れ等によりて發明せられたる鑄貨は遙かに後に至り、フェニキアに於けるチュロス及びシドンの如き大商業都市の採用する所と爲れり。鑄貨は一時に多量の財貨を交換せる大商人若しくは船荷主に對するよりも、寧ろ小商人若しく

は行商人に取りて必要遙かに大なりしなり。斯くして一度び導入せられたる鑄貨は軈がて日常生活上の取引にも侵入し、是れよりして一世紀を經過したるソローンの時代に於いては貨幣經濟はホメーロス時代の希臘に見る自然經濟を殆んど全く排除するに至れり。

家畜が主たる價値の標準にして、交易が猶ほ大部分物々交換の域を出づることなかりしホメーロスの時代に於いては、土地は嚴格なる世襲制度の下に置かれ、之れが賣買讓渡は斷じて行はるゝことなかりしも、ヘシオドスの時代に至りては土地は既に賣買讓渡し得るものと爲り、財富獲得欲は痛烈なる社會的病患を釀しつゝありしなり。（「前史」四二—五一頁、一〇四頁參照）。

四

希臘の農業は穀物の不足と葡萄酒及び橄欖油の過剩とを以つて特徴とするものなり。（「前史」二一二頁參照）。斯くて穀物の不足を酒と油を以つて補ふの必要は國際的分勞に資し、商業經濟をして其の緒に就かしめ、希臘人はフェニキヤ人に倣ひて、暴力的方法を廢棄し、夷狄と正規の通商を行ふに至れり。ツキュディデスは人口過多に陷れる社會は食料を取得するが爲めに必要なる土地を獲得せんとして戰爭を行はざる可らずと做すの原則を承認せり。洵に初め希臘人の行へる戰爭の主たる目的はツキュディデスの所謂「收入と領土」、換言すれば、土地及び糧食を取得するに存せり。（Thuc., I. 15.）。豐沃なる地方は占領せられて、先住人民は驅逐せらるゝか若しくは貢を納付することを强制せられたり。斯くて戰爭、若しくは寧ろ國家的盜奪とも稱す可きものは市邦生活及び經濟の確定的部分と爲れり。食料の必要は又過剩人口の爲めに排口を取得す可き植民の政策を刺激せり。大遠征隊は希臘の庇保要港より小亞細亞、伊太利亞、シキリア及び馬耳塞に定住するが爲めに出發せり。希臘人は植民によりて海を越えて漸次耕作地を占領するの業を持續し、著しく其の國土を擴張し、而してあらゆる新希臘に於いて通商の利潤を獨占せり。農業と植民の同時の發達は有利なる衝動を工業に與へたり。良質の大量液體物產を貯藏するが爲めに陶器は絶えず製造せられ、美術品として取扱はるゝに至れり。其の母市の金物及び織物に慣れたる移民は製造業者を鼓舞して更らに高度の生產を行はしめたり。工業は軈がて又商業を刺激せり。斯くて生產者と消費者の間に直接交易の行はれたる時代は過ぎて、國際間に於いて、又同一都市內に於いて仲介商人を有するに至れり。自己の產物（αὐτοπῶλαι）を賣る αὐτοπωλικοί は他人の產物を交換する μεταβιβικοί に代ることゝ爲れり。（Glotz, op. cit., p. 65.）。

紀元前第八世紀の半より同第六世紀の半に亙れる希臘人の地中海及び黑海沿岸への發展は洵に其の經濟史上に於ける最も重要なるものゝ一なり。人口の增加せる時、希臘の狹少なる土壤は之れを支持するに足らざるに至れり。然れども爰に所謂人口の過多は固より相對的のものたるを認めざるを得ず。蓋し土地の不足は多く人爲的なりしが故なり。希臘都市には土地財產を有せざる多數の人民存したるが、斯くの如きは其の土地制度に由つて生じたるものなり。土地が集合的に氏族に屬したる間は、之れに屬することなきか、若しくは其の外に去れる者は荒蕪地を占領するか、若しくは盜賊又は海賊の業に從事するの外、他に何等の方法をも有することなかりしなり。父權的組織崩潰の後、大財產は分割せられたるも、而も猶ほ土地所有は、大家族に屬せざるか、又は荒蕪地の開墾に參加せる者

の子孫に非ざる者に對しては禁止せられたり。而して死亡の際に於ける財産の分割は自己を支持すること能はざる土地所有者の階級を生じたり。斯くて苟もより安易なる生活を送り得るの見込あらば、之れを求めんとする冒險者及び浮浪の徒は海を越えて、豐沃なる土地の小片を占有するか、又は縱令ひ如何なる方法にても財産を形成するの機會あらば、必ず之れに乘ぜんとせり。「仕事と曆日」の詩人ヘシオドスの父デイオス（Δίος）は小亞細亞なるミシアのエオリスに於けるキメに移住せるロクリス人の裔なるが、此の地に於いて自己を給養するに足る土地を有することなかりしが爲め、其の身を扁舟に託して母國に歸り、さゝやかなる事業を營みしが、遂に其の附近なる「冬いたましく、夏はみじめに、曾つて快きことなき」寒村、ヘリコーン山の北側なるボイオチアのアスクラに移住し、瘠土の上に勞働を續けたり。（「前史」四三頁參照）。

希臘人が特に海外に求めたるものは耕作す可き土地の小片にして、彼れ等を促して植民を行はしめたる主要の動機は實に土壤に對する愛慾の念なりき。希臘の植民市は母國の都市を模せる農業的社會にして、移住民の大部分は其の鄕土に在つて土地を求めて絶叫しつゝありし耕地なき耕作者にして、古き農業上の傳說を携へて移住せる者なり。（Alfred Zimmern, The Greek Commonwealth, Politics & Economics in Fifth-Century Athens, 5th ed., 1931, p. 253.）。洵に希臘の植民は斯くの如く顯著なる農地的性質を有せりと雖も、而も田圃の取得は其の唯一の目的に非ず、又農民は其の唯一の開路者にも非ざりしなり。確かに原則としては、其の主たる目的は土地を獲得するに存し、工業上及び商業上の繁榮と都市的活動とは、耕作の擴張が土着民の反抗の爲めに內地に於いて停止せられ、而して事情が特に海上に於ける企業に有利なるに至れる際に生じたるものなり。然れども、吾人は希臘人が動產物件の追求に由りて一定數の場所に導かれたるの事實をも亦認めざるを得ず。（Glotz, op. cit., pp. 98-100.）。實に希臘の植民市は其の起源に於いて必ずしも同一樣に非ざるなり。

商業上重要の地位を獲得するに至りたる最初の希臘都市は小亞細亞のミレートスなりしが如し。强大なるリュデイア王國、而して又其の後凡そ紀元前五百三十年より同三百三十年に亙りては大波斯帝國が內地に侵入することを妨害せるが故に、希臘人は單に小亞細亞の沿岸を占有せるに過ぎず。彼れ等の小島嶼並びに谿谷が養ふことを得ざるに至りたる人口の增加が彼れ等を驅つて植民を行ふに至らしめたる時、彼れ等は抵抗の最も尠き方向に沿ひて北方若しくは西方に進出せり。ミレートスは早く既に紀元七百年の交に於いて「大海港市として存し、專ら黑海沿岸に多數の植民地を建設せり。同市の領域は羊群に富み、其の潤澤なる羊毛の供給は同市をしてチュロスと拮抗することを得せしめ、其の毛織物類即ち Milesia vellera によつて特に有名と爲れり。而してミレートスの商人は銳意產物の供給增加に努め、是れに由りて更らに工業を發達せしめたり。初め一時的の市が海邊に開催せられ、海岸の諸地點が條約によりて住民より購入せられ、倉庫を有する常設の諸市場が設立せられ、而して諸商館は其の代理人を是れ等の諸市場內に置き、是れ等の代理人は貨物の陸揚げ及び賣捌きを指揮し、而して冬期に於ける航海停止期間に於いてすら猶ほ海外に止まれり。斯くの如き場所の中には其の後に至りて廢棄せられたるものありしも、商業上の利益大なるか、若しくは氣候及び水の優良なる地位に在りしものは維持擴張せられ、最後に、商品の置場は發達して一

個獨立の商業地、母市の模寫たる一個の希臘社會と爲るに至れり。（W. Cunningham, An Essay on Western Civilization in its economic aspects, Ancient Times, stereotyped ed., 1902, p. 87.）。

西紀前七百三十三年、コリントス人及び他のドリス人の一植民地によりてシキリアのシュラクーザに植民地が建設せられたることは又、希臘の西漸史上に於ける最も重大なる初期の一事件たるを失はず。又羅馬時代及び其の後を通じて依然として重要の地位を維持したる通商の經營者及び植民地の建設者としてはロードスを擧ぐるを得可し。

洵に人口の增加は希臘人をして植民を行ふの已むなきに至らしめ、植民地は其の母市と交易を營み、是れに由つて又、母市の工業を發達せしむるを得たり。而して是れ等手工業の堅實なる發達と其の產物を以つてする外國貿易の增進とは終に植民を停止せしめたり。希臘の農業が支持し得ざる人口は今や必需品及び原料品と交換せらる可き商品を生產するに由りて國內に於いて生計を獲得し得るに至れり。這般の外國貿易は其れ自體多くの人手を使用するものなるが、而も猶ほ人口の過剩存せりとせば、之れを東方諸國の君主若しくは國王に傭兵として貸し出す可き多くの機會存せり。（Melvin M. Knight, Economic History of Europe to the End of the Middle Ages, 1926, p. 36.）。

五

雅典の立法者ソローンは夙に雅典に商工業を發達せしめ、此處に移民を吸收せんとするに鋭意なりき。（Ploutarch, Solon, 22, 24.）。（「前史」五三頁參照）。是に於いて乎、彼れは穀物の輸出を禁止するの策を執り、以つて獨り雅典人をしてアッチカに於いて生產せられたる穀物を購入するを得せしめんとせり。穀物輸出に對して加へられたる拘束は雅典市場に於ける異鄉產穀物の競爭と相俟つて甚しく農業上の利益を害せざるを得ず。

農業の經營は自給自足の域を脫して販賣を目的とするに至れり。貨幣經濟は自然經濟に代れり。小農民は彼れを以つて其の業務を續行するを得せしむるが爲めに、前以つて貨幣を借入れ、而して其の產物を市場に致して一定の價格を以つて之れを販賣せざるを得ず。彼れ等は地代若しくは租稅、又は利子の支拂ひに實物を以つてせずして、貨幣を以つてせざる可らずとせば、多大の困難に遭遇せざるを得ず。ソローン時代の雅典に於いては、地代は或る範圍まで實物を以つて支拂はれ、而して地租が存在せりと想像す可き理由存せざるも、貧困なる小農民は屢々富裕なる土地所有階級に偶發的援助を受けざるを得ず。而して後者は債務者の土地を擔保として銀を前貸せり。而して彼れ等は凶年に際し、小農民の窮狀に乘じて、之れを搾取して餘す所なかりき。

紀元前五百九十四年を以つて執政官（ἄρχων）に選任せられたるソローンは先づ第一には一定の一時的弊害を除去せんことを求められたる「改正者」（διορθωτής）にして、又、强弱兩對立階級間の「調停者」（διαλλακτής）なり。而して彼れは第二には、富を以つて家系に代へて參政權の基礎たらしめたる立法者（νομοθέτης）なり。

彼れによつて解決を與へられたる農業上の問題は、アッチカの如き固と純然たる農業生活に適すること極めて少なき國土に於いて悪作用を爲せる分益借地法の弊害に其の源を發せるものゝ如し。紀元前一千〇六十八年に於ける雅典最後の王コドロス（Κόδρος）の犧牲的死より、ソローンの改革に至るまで、あらゆる權力はエウパトリダエ

（εὐπατρίδαι）と稱する少數特權階級の手中に存せり。王は屢々庶民階級を引き上げ、諸氏族を微弱ならしめんとせるが爲めに、王政は破壞せられたるなり。（「前史」五一、二二八―九頁）。其の奴隷によつて耕作せらるゝエウパトリダエの直領に非ざる土地はペラタェ（πελάται）若しくはエクチモレオエ（ἑκτημόροι）によつて占有せられたり。彼れ等は被護民にも、亦隷農にも非ざる地位に存し、其の領主に對する從屬は彼れ等が其の農場産物の六分一（或ひは曰く六分五と）を彼れに支拂ふの事實によりて表示せらるゝ借地人なり。其の他の點に於いては、彼れ等は自由にして、其の借り受けたる土地は、氏族の外に在つては讓渡不可能なりしも、氏族内に於いては傳襲し得可きものなり。然れども、前述の如く凶作に際して彼れ等は其の領主の掌中に委せられ、債務を標示する抵當權標柱（ὅροι）は借地農場の到る所に打ち立てられ、而して彼れ等は又其の人格を擔保として借財を行ひ、遂には隷農の境涯に沈み、若しくは國外に賣却せられたり。（Solon, Frag. 32.）。

執政官は其の就任に際し、彼れが其の統治間現存の財産權を保證す可きことを宣言するの慣ひなりしが、ソローンは之れに代へて新たなる布告を爲し、國家の病弊を癒治せんとする旨を聲明せり。彼れはあらゆる現存土地擔保を無效ならしめたり。彼れは自ら歌つて曰く「『時』の法廷に於ける余の最良の證人はオリュンポスの神々の偉大なる母なる黑き『大地』其の人なりき、蓋し余は到る處に彼の女を貫ける境標の多數を引き拔けるが故なり。長年の拘束の後に、彼の女は放たれたり」と。（Solon, Frag. 24.）。（「前史」一三〇―一頁參照）。加之、彼れは債務の爲めに奴隷たらしめられたる總べての人々に自由を與へ、又總べての形態に於ける人格的服從を惹起せる一切の債務の解除（χρεῶν ἀποκοπή）を爲せりと推定せらる可き理由を有す。彼れは向後、貸付に對する保證として債務者の人格を受領するを以つて不法なりと宣言せり。斯くてアッチカ内に於ける總べての債務奴隷若しくは債務隷農―ソローンの歌詞を以つてすれば、「奴隷の凌辱を受け、其の主人の專恣の下に畏縮せる」者は完全なる自由を取得せり。而して國外に奴隷として賣られたる者も亦、雅典の國庫により、又は私人の仁慈により、若しくは又彼れ等を賣れる債權者に對する强制により、賠償せられて「彼れ等の祖國、神の建設せる雅典に」復歸せしめられたり。（ibid.）。

然れども、爾後の歷史に徵して、農業階級が、是れに由りて永久的に救濟せらるゝを得ざりしことは極めて明かなり。吾人は、小農民がソローンの「債務解除令」の爲めに、擔保を供し得る能力一層弱少と爲り、是れが爲めに從前よりも、却つて高率の利子を支拂はざるを得ざるに至れるものと看做さゞるを得ず。アンドロチオン等に據れば、彼れの「債務解除令」は利率の低減をも含むものと稱せらるゝも、（Ploutarch., Solon, 15.）、而も此の法令は毫も利率に關する制限を設くることなかりしが如し。（Theodor Mommsen, Römische Geschichte, I, 9. Aufl., 1904, S. 281.）。（「前史」一三一頁）。ソローンは又、其の幣政改革によりて、重量の銀貨を以つて借入れたる者の債務を之れと同數の輕量新貨の支拂によりて免れしめんことを意圖せりと稱せられたりと雖も、而も斯くの如き論斷は幾許ならずしてアリストテレースの排斥する所と爲れり。（「前史」一〇五―六頁參照）。ソローンの立法より生じたる直接の效果は、一定の金持をして廣大なる地所を購入するの機會を得せしめたるに存せり。斯くてソローンは故意

に貴族中に於ける其の友人の利益を招來す可く行動せるものにして、彼れの三友人は經濟的混亂に乘じて金を借入れ、而して抵當權の下に置かれたる地所を低廉なる値段を以つて買ひ占めたりと誹謗せられ、而してソローン自身をも亦往々之れが連累なりと看做せる者ありしと雖も、而も彼れはアリストテレースによつて其の靑天白日を立證せられたり。（Aristoteles, Ath. Pol.; 6; Ploutarch., Praecepta gerendae Reipublicae, 807.）。

然れども、要するに彼れの改革の結果として、アッチカには富者の地所を耕作せる借金奴隷若しくは隷農に代へて、手工業に依るか、若しくは農業上の勞働者として勞作するかの何れかに依りて生計を獲得せざる可らざる土地を失へる多數の人民を殘すに至れりと稱せざるを得ず。斯くてソローンの經濟的改革は即時に太平滿悅の時代を生ぜしむることとなくして、却つて將來の不滿爭鬪の種を殘せり。アッチカの農業的繁榮を來さしめたる小農民階級の設定を完成するの業は次ぎの世代に保留せられたり。

ソローンは雅典を導きて工業と海外貿易とに向はしめ、之れに與ふるに一層便利なる新貨を以つてし、雅典の度量衡制度の基を開き、而して農民をして小麥より橄欖へ、即ち換言すれば、其の土地に不適當なる產物より最も能く之れに適せる產物へ轉向せしめたり。彼れは橄欖油以外の田園產物の輸出を禁止せり。斯くて其の所有地上に於ける奴隷を包含する地主の家計の爲めに必要なる限りの外は、穀物の產出は阻害せられ、從つて又、雅典の市場は國外より輸入せられたる穀物の供給に依賴するに至らしめられたるものゝ如し。彼れは何等の職業をも有せざる者に罰金を科し、其の子に一定の職を敎へざりし親は老後扶養せらるゝの權利なきものと規定し、而して職を有する異鄕民は又彼れによりて自由に雅典に定住して、此處に其の職に出精し、而して容易に市民と爲ることを得せしめられたりと傳へらる。（Ploutarch., op. cit., 22, 24.）。ソローンは又嫡出子ある場合には、彼れ等は其の父の財產に對して動かし難き權利を有し、而して彼れ等にして姉妹を有する場合には嫁資を與ふるの義務を認むると同時に、正統の子なき者に遺言を以つて其の財產を讓渡するの權を認め、其の欲するがまゝに自由に自己の所有物を處分し得るの刺激を與へて、彼れをして勞作し、交易し、航海し、而して其の財產と國富とを增大することを得せしめたり。然れども、這般の遺贈は遺言書に由る養子の形式を取ること頗る多く、而して財產が分割せられずして殘されたる場合には、遺言狀は死後に於ける養子緣組の形式と看做さるゝを得可し。斯くの如き養子が猶ほ財產を其の家族內に保持するの一形式と觀られ得る事は、ソローンが彼れの執政官就任以前に養子緣組せられたる者を自由遺贈の權利より排除せるの事實よりして推知するを得可し。蓋し是れ等の人々は特殊家族內に財產を維持するが爲めに養子せられたるものにして、斯くて又、單に一生涯の間のみ之れに利害關係を有するものと看做され得可きが故なり。要するに此の點に於いてソローンの立法は家族の要求と個人の權利との兩者を尊重せるの結果に出でしものと稱するを得可し。而してソローンは其の憲法によつて王權の廢止以後、政權を獨占し、農民（Γεωμόρον）及び技工（Δημιουργοί）より區別せられたるエウパトリダエの特權を廢止し、恒產寡頭政治の基礎を定めたり。（「前史」一三〇—一頁參照）。

六

雅典に於ける諸貴族の對峙と諸利害關係の分岐とはソローンの期待せる平和を確立するが爲めには餘りに強大なりき。斯くの如き爭鬪の結果は自から僭主政治を導かざるを得ず。舊家の貴族なるダマシアス（Δαμάσιας）が僭主たらんとして失敗せる後、雅典の政府は貴族より五名、小農民より三名、工匠より二名、都合十名の執政官に委ねられたり。

古傳說は、ソローンの執政官時代よりペイシストラトス（Πεισίστρατος）の僭主政治に至る間に於いて、雅典に於いては三政黨――即ち平原黨、海岸黨及び高地黨の軋轢の存したることを物語るも、（「前史」五四頁）、而も最初先づ對立せるものは、平原、海岸の兩黨なり。平原黨に屬する人々は貴族及び裕福なる農民にして、彼れ等はアッチカに於ける最良の土地を保有し、出生及び土地の力が猶ほ改革によりて害せられざりし時代を回想して哀惜の念に堪へざるものなり。之れに對立するものは漁夫及び水夫並びに工匠より成る海岸黨の人々にして、其の關心はアッチカの商業的發達、土地以外の富に存せり。是れ等兩黨の外、尙ほ首領を待望せるアッチカの一部あり。「平原」の農業上の繁榮にも、「海岸」の商業上の進步にも共に與ることを得ざりしアッチカ北東の「高地」（Διακρία）是れなり。此處には牧人及び小農場の小作人――ソローンが自由を與へて土地を與へざりし多數の人々居住せり。彼れ等は實にペイシストラトズに於いて彼れ等の要求を主張す可き首領を看出せり。而してペイシストラトスは是れ等高地の人民を自己の野心を達成す可き手段に供せりと雖も、而も彼れは彼れが是れ等人民の援助を贏ち得たる約諾を履行するに於いて有爲にして銳意なるを示したり。既述の如く、ソローンの改革以後、アッチカに於ける最良地の大部分は最も富裕なる貴族の手中に殘存し、多數の雅典人は勞働者として働くか、若しくはアッチカの惡地上に貧しき生活を送るの已むなきに至れり。土地の大部分を保有せる富裕なる貴族はペイシストラトスの爲めに敗られ、其の多くは或ひは斃れ、或ひは流寓するに至れるが爲めにペイシストラトスは其の所有地を彼れの味方に報酬として與ふることを得しなり。斯くて多數の雅典人は小農場に定住するを得るに至れり。（「前史」二三一―二頁參照）。法官はアッチカを巡回し諸村落に於いて判決を下すが爲めに任命せられて、地方の小農民階級の便宜に應ずることゝ爲れり。斯くて得られたる政府安定の徵は橄欖栽培の普及に現れたり。蓋し橄欖の如く、生長遲々たる樹木の栽培は平和時の所產たるが故なり。而して橄欖油及び葡萄酒の輸出增加に連れて陶器の生產も亦增加するに至れり。而して僭主の保護によつて藝術家は國外より誘致せられたり。（The Cambridge Ancient History, Vol. IV. The Persian Empire and the West, 1926, pp. 65-7.）。

斯くてアッチカの人口は增加の勢ひを續け、橄欖栽培の利益が愈々大なるを示すに連れて、穀物耕作は衰微せざるを得ず。爰に於いて乎、小亞細亞の最北東なるポントス地方の收穫は雅典に取りて次第に其の重要性を增加するに至れり。ペイシストラトスはポントスに到る通商路を支配するの一事が如何に雅典に取りて重大なる利害關係を有するかを承認せざるを得ざりき。アッチカ極南のスーニオン岬は其の下を航行する穀物船を保護するが爲めに防禦工事を施されたり。

穀物船の航路を防護するの一事は雅典人の著しく努力せる所にして、群行船隊は護送船によりて衛護せられた

り。同國は固より唯一の泉源より穀物の供給を仰げるに非ずして、そはポントス、スラキア、スュリア、埃及、リブュア及びシキリアより輸入せられたるも、而も斯くの如く相異れる幾多の方面より來る船舶に對して充分なる保護を與ふるは決して容易の業に非ざりしなり。豐年に於いてすらアッチカは辛じて、七萬五千の人口を養ふに必要なる高たる四十五萬メディムニの穀物を生産し得たるに過ぎず。斯くの如き高は恐らく地方人口の所要には充分なりしならんも、町の需要に應ずるには全然不充分なりき。而して雅典は何れの希臘諸邦よりも、國外よりして食料の供給を仰ぐの程度大なりしと雖も、而も同國は決して這般の必要に驅られたる希臘に於ける唯一の邦家には非ず。ペロポンネソス半島は蓋し常態に於いては自給的なりしならんも、而も其の商工業の發達によりて異邦人及び奴隷の大流入を來したるコリントス、エーゲーナ及びエピダウロスの如き諸邦は之れが例外と認めざるを得ず。是等の諸邦のみ獨り輸入せられたる穀物に對して支拂ふの財源を有せしなり。其の他の諸邦に於いては、アルカディアに於けるが如く、人口對食料の問題は或ひは傭兵として、或ひは他の能力を以つて國外に勤務するが爲めに多數の人々が移住するに由りて解決せられざるを得ざりき。（Cambridge Ancient History, Vol. V. Athens 478-431 B. C., pp. 13-14.）。

七

斯くの如き事情の下に於いて、雅典は自國の消費に取りて必要なる穀物の供給を取得するが爲めに强制的法制を制定せざるを得ざりき。如何なる住民と雖も、雅典の港、ピラェエウス（Πειραιεύς）の外、何處にも穀物を運ぶことを許されず。此の法制を侵犯する者はファシス（φάσις）又はエイサンゲリア（εἰσαγγελία）に處せられざる可らず。入港せる船舶は其の積載せる穀物の三分の二を雅典に於いて販賣せざるを得ずして、再輸出し得るは僅かに三分の一に過ぎず。如何なる雅典人若しくはアッチカに於ける異邦の居留民と雖も、穀物又は他の貨物を積載して雅典に歸るとなき船舶に貸金を行ふことを得ずと定められたり。（Demosthenes, in Lacrit., p. 941. 4, 9-20; In Phorm., p. 918. 5; Lycurgus, in Leocr., p. 156.）。（August Böckh, Die Staatshaushaltung der Athener, 1817, I. Bd. 9.）。

這個穀物の充分なる供給を取得するが爲めに行はれたる諸策は、其の着荷を待つて之れを買ひ占め、而して後、法外の價格を以つて之れを小賣する雅典に於ける卸商人の行動によりて或る範圍まで破られざるを得ず。斯くの如き中間商人の行動を抑制するが爲めに幾多の手段は講ぜられたり。一度に五十籃（φορμοί）以上を購入することを許さずして、這個法の限度を超えて買占を爲す者は死を以つて處罰せられたり。普通の物品は單に市場長官（ἀγορανόμοι）の一般的監督の下に置かれたるに過ぎざるも（「三田學會雜誌」第二十卷第十號所載拙稿「雅典國の收入」三〇—三一頁參照）、穀物の販賣を監視するが爲めには、初め三人、後には市に五人、港に五人都合十人（異說あるも）に增員せられたる特殊の穀物取締吏局（σιτοφύλακες）存して、其の販賣を看視せり。（Aristot., Ath. Pol., 51. 前揭拙稿四一頁參照）。彼れ等は輸入穀物と其の販賣せられたる價格とを記帳せり。彼れ等は粉屋若しくは麵麭屋が過大なる利潤を擧ぐることを防止するの權利を有す。麥粉及び麵麭の價格は精確に原料の費用に比例せる水準を維持す可きものなり。穀物商人は又、彼れ等自身の支拂へる價格以上に僅かに一オボロスの利潤を得て其の穀物の一

メディムノスを賣ることを强制せられたり。即ち彼れ等は確定の價格を遵守し、缺乏に乘じて暴利を收むることなかる可きを戒告せられたり。確定の價格は、穀物取引所（ἀλφιτοπώλιον）に於いて決定せられたる賣價にして、又危急に際しては國家自ら穀物を販賣す可き價格なり。然れども國家は斷じて各個の商人に對して之れを超過することを禁ずるが如き暴擧を敢てせんとすることなかりき。國家は決して「傳家の寶刀」を拔くことを爲さず。其の行へる總べてのものは、可能なる一切の說得の方法を用ひて、商人をして充分に寬大ならしめ、自發的に這般の價格を採用するに至らしむるに在り。名譽と公の義務とが大多數の人々に取りては金銀に優りたる紀元前第五世紀の雅典に於いては、斯くの如き方法は猶ほ有效なりしなる可し。而も後に至つて這般の方法が昔日の如き效果を擧ぐるを得ざるに至りし事は、單に穀物の供給を取扱へる有司の數が增加せしめられたるによつても亦之れを窺知するを得可し。(Zimmern, op. cit., p. 365.)。而して實にリュシアスの時代に於いては、這般の取締あるに拘らず、大部分異邦人より成る穀物商人は凶年に於いては相聯合して、競爭により穀物の價格を引き上ぐることを避け、而して同日內に一ドラックメ高く之れを賣ること屢々なりき。(Lysias, Adversus Frumentarios, p. 715, 718, 720.)。リュシアス曰く「彼れ等にして若し死刑を以つて威嚇せられざりしならんには、彼れ等は殆んど堪へ難きものなりしなる可し」と。(ibid., p. 725.)。

既述の如き規定存したるに拘らず、クセノフォンの說くが如く、商人等は種々なる地方に其の穀物を持ち廻り、而して其の到着せる最初の場所に於いて之れを賣らずして、彼れ等が其の價格の最高なることを確めたる處に於いて之を賣却せり。(Œcon., xx, 27.)。一時キュプロスに於いて貿易に從事せる演說家アンドキデース（Ἀνδοκίδης）はキュプラスより雅典に向けて出帆せる穀物船隊を他の方向に轉ぜしめんとせる企圖ありしも、而も彼れは斯くの如き計畫を立てたる者をして之れを放棄せしめたることを物語れり。(Andocides, De suo reditu, pp. 85, 86.)。

雅典には又、穀物を蓄藏す可き公設の倉廩存せり。是れ等のものは商人等の爲めの保稅倉庫の性質を有すると共に、又貧困なる市民の爲めの穀物の公貯蓄なりしが如し。(Cunningham, op. cit., pp. 104-5. 前揭拙稿四一頁參照)。

八

貨幣は次第に資本化せられて、利殖の用に供せらるゝこと愈々多きに至れり。吾人は既に紀元前第六世紀の交に於いて富裕なる資本所有者存して、其の行動は小農民に取りて有害なる影響を有したることを述べたり。斯くの如き階級の重要性は獨り農業のみに止らず、商工業に於いても亦認められたり。自然經濟は猶ほ家計に於いて、又私領に於いて主として行はれたりと雖も、貨幣及び資本は商業的企業の總べての徑路に於いて、又國家の事業を遂行するに於いて要求せられたり。雅典は土地、鑛山、港灣及び生產資料の大部分を所有し、集產主義的國有の理想は此の國に於いて著しく大なる範圍まで實現せられたるを以つて、一見私的企業の餘地は頗る狹少なるの觀なくんば非ず。然れども、あらゆる公事業は一定の支拂に對して一定の期間資本家に貸し出され、資本家は當該期間自己の利益の爲めに之れを營み、斯くて、生產の資源は私人により領有せらるゝことなかりしも、而も是れ等のものは之れを請負へる私資本家によつて管理せられたり。牧場たると耕作地たるとを問はず、公有地、家屋及び其の他の造

營物は入札によつて私人に貸し出さるゝの常にして、賃貸の期間は種々なる場合に於いて著しく相違ありしが如し。（前掲「雅典國の收入」一〇―一一頁參照）。鑛山は曾つて公費を以つて經營せられ、若しくは國家によつて他の不動產の如く、一定の年限を劃して貸し出さるゝことなく、常に無制限借地として私人に交付せられ、而して其の借地權は相續、賣却及びあらゆる種類の法律上の讓渡に由りて轉々せり。（同六―八頁）。石山が如何なる方法を以つて規制せられたるかは詳かならず。（同八頁）。單に輸入に對してのみ賦課せられたる穀物關税（πεντηκοστὴ τοῦ σίτου）が私人に貸し出されたるに徵して（Demosth., Orat. in Near., p. 1353. 23.）、輸出入に課せられたる五十分一即ち二分の海關税（πεντηκοστή）の徵收は亦、恐らく年々財務司（πωλῆται）が最高の入札者に請負はしめたる所なる可し。黑海を出入する船舶の積荷に課せる十分一税（δεκάτη）も亦、其の徵收を請負はしめられたり。其の他居留外人及び外來民に對する税金並びに醜業婦に對するもの（πορνικὸν τέλος）皆同樣なり。（同九―一二頁參照）。而して是れ等徵税の請負は屢々個人の力に及ばずして、富者は組合若しくは結社を組織して之れを引き受けたり。公經營は殆んど全く存することなく、又公經營の行はれたる所に於いては官吏の腐敗墮落甚しきものありき。（Cunningham, op. cit., pp. 105-7.）。

九

雅典は希臘の商業的中心たると共に亦其の工業的中心と爲れり。雅典の工業的活動の多くは職人によりて自己の仕事場及び家庭に於いて遂行せられたり。雅典の勞働人口の大部分は經濟的自由を享有せる賃銀勞働者より成れり。而して其の或る者は政治的特權を有する市民にして、他は居留外人なり。石工請負人も亦、彼れ自身勞働者たりしなり。國家が彼れ等の勤務を要求することなき通常の日に於いては、彼れ等は四五人の若き徒弟と共に、自己の石工場に於いて勞作す。而も彼れ等の熟練を要求する公建築の存する際には、彼れ等は暫時國家の仕事を引き受け、國家の監督官若しくは公事業の特別委員（ἐπιστάται τῶν δημοσίων ἔργων）との協定の下に勞作せり。往々石工の親方は單に監督職工に過ぎざるものと爲り、彼れは依然其の職人等の作業を監督するも、而も職人等は其の支拂を直接國家より受けたり。然れども更らに多くの場合に於いては、彼れは小請負人たるに止まり、自ら其の仕事を引き受け、而して其の仕上げに對する一切の責任を承認するなり。（Zimmern, op. cit., p. 261.）。

吾人は又、雅典が多數の自由勞働者を有すると共に、之れに加へて多數の奴隷を有したるの事實を認めざる可らず。西紀前四百〇九年に於ける同市守護神の聖殿エレクテイオン（Ἐρεχθεῖον）の建設の爲めに同市の行へる支拂の記錄は二十七人の市民、四十人の居留外人、並びに十五人の奴隷に對して賃銀を支拂へることを傳へたり。他の記錄は種々なる勞作者の集團――自由民、外人及び奴隷――が公事業に使傭せられたることを示せり。是れ等三種の勞作者は相共に作業し、奴隷と非市民とは市民の勞作者と等しき勞役を行へるの觀あり。（F. Stuart Chapin, An Historical Introduction to Social Economy, 1917, p. 28.）。奴隷制度の發達は族長制度の崩壞より生じたる最普遍的現象の一にして、そは又新たなる產業組織の發達を促して、自給的家族經濟の破壞を助成せり。（「前史」一九四―五頁）。而も希臘に於いては、遂に帝政治下の羅馬に於けるが如く、奴隷制度の著大なる發達を見ることなくして

終りたることは、吾人が他の機會に於いて論じたるが如し。（同二一一—六、二三四頁參照）。

雅典に於ける自由市民に對する奴隷の割合は明確ならず。「學者の宴會」（Δειπνοσοφισταί）の著者アテナエオス（Ἀθήναιος）がクテシクレスを引用せる所に據れば、紀元前三百〇九年ファレロォンのデメトリアス（Δημήτριος Φαληρεύς）が執政官たりし際に行はれたる民勢調査の結果は、雅典には二萬一千の市民、一萬の外人及び四十萬の奴隷の存するを示したりと云ふ。（Ap. Athen. Lib. iv. cap. 20. p. 272 B.）。此の極めて重要なる叙述、殊に奴隷の數に至つては疑問の餘地頗る大なるものあり。ヒュームは其の Political Discourses. 中の Of the Populousness of Ancient Nations. に於いて、此の奴隷數は零を一つ餘分に加へたるものにして、四萬人以上と看做さる可きものに非ずと主張せり。（ibid., 1752, pp. 220 ff.）。而して之れに對する反對の意見多々存したるも、而も此の說はベロッホ（K. J. Beloch）の周到なる主張に由りて著しく確實性を增加せしめられたり。（Die Bevölkerung der griechisch-römischen Welt, 1886, I, S. 95.）。

而して此の政治的に無力なる多數の勞働者、即ち奴隷と並んで、國政に對して强大なる影響を與へたる多數の自由勞働者の存在——實際上手職に依つて生活を支持せざるを得ざる土地を有せざる市民階級の存在は特に觀過す可らざるものに屬す。

アッチカに於いては、寺院は猶ほ其の所有地を持續し、之れを借地農に貸し出せりと雖も、多數の大私有地が第六世紀に於いて分裂せしめられたることは既に述べたるが如し。僭主ペイシストラトスの死後、雅典に二個年の內爭行はれたるが、大膽に人民に呼び掛けたる貴族クレイステネス（Κλεισθένης）は貴族黨の首領イサゴラス（Ἰσαγόρας）を逐ひて、此の階級鬪爭を終熄せしめたり。クレイステネスはソローンの如き信念によつて立つ政治的改革家に非ずして、庶民の好意を得んことを企圖せる拔目なき政治家、即ち σοφιστὴς τοῦ πλήθους に過ぎず。固と平原、海岸及び高地の三黨に分れたる人民は今や其の行動を共にするに至りしが故に、著大なる力を享受するに至れり。クレイステネスはイオニアの四種族を廢して新たなる十種族を以つて之れに代へたり。各種族は地區（δῆμος）と稱せられたる更らに小なる單位より構成せられたり。是れ等の地區は必ずしも相接觸せるものに非ずして、同一種族の地區と雖も、或るものは丘陵の近くに、他のものは平原に、而して殘餘のものは海岸に存して悉く一所に在るものに非ず。從つて又、各種族は地方的性質を有するも、而も地方的利益を代表するとなし。舊き種族的共同體は分裂し、別箇の小地區は之れに代り、是れ等對立的階級の各々の共同一致は破壞せられ、彼れ等は爾後煩勞を與ふるとなきに至れり。國家を完全に家族組織より絕緣せしむるに由りて舊き氏族的勢力の直接政治上の意義を破壞し、而して人民をして出來得る限り混合せしめ、別箇の利害關係を破壞し、斯くて又、共同の國民的精神を創造するは實に此の再區分の趣旨なりしなり。加之、地方及び異鄉よりの來住に由りて、都市の人口は既に著しく增加を來しつゝありしが、クレイステネスの改革は、當時アッチカに居住せる多數の異邦民及び被放民にして、商的職業に從事し、斯くて又進步せる自由の見解を有する者に雅典の市民權を賦與して市民の數を增加し、雅典人をして一層進步的なる人民たらしむると共に、卑賤なる血統及び感情を雅典に注入するに至れり。（「前史」二三三頁）。

希臘に於ける民主政治の發達は又、波斯戰役によつて促進せられたり。強敵波斯に對し、希臘全土は、今や其の全力を結合して當るに非ざれば、勝算なきを觀たり。而して紀元前四百九十年、マラトンの大勝によつて雅典及び希臘を救へるものは甲兵にして、同四百八十年に於けるサラミス海戰の勝利は水兵によつて獲られたり。中層及び下層階級は其の要求を支持す可き光榮ある權原を贏ち得たり。兵士の一般的徴募は約二十年內外に於いて普通選擧を誘致せり。雅典は其の海上に於ける勢力に由りて聯盟の主位に立てり。同市は有利なる商業上の獨占を享有し、通過稅及び聯盟諸市の貢獻、並びに司法上の料金に由りて多額の收入を取得し、而して又脫盟者より沒收せる土地は屢々其の分配を同市に委ねられたり。雅典市は是れに由りて其の稠密なる市民の經費に應ずるを得たり。平等獨立なる市邦の聯盟として出發せる所のものは、三十年を出でずして、雅典人の帝國（ἀρχή）と化せり。海上權を掌握し、繁盛なる外國貿易と製造工業とを有する雅典は、一小市邦の舊態を一新せり。商工業の著大なる發達は土地財產に對して他の勢力を樹立し、國家の重心を推移せしめたり。ペリクレス（Περικλῆς）時代に於けるアッチカ市民は、半は土地より、半は生產的企業に對する投資より其の收入を取得しつゝある少數の富者と多數の小農民及び工匠より組織せられたり。（「前史」二三四—五頁）。

十

農業は幾分科學的耕作の方向に進歩せるの事實なきに非ざるも、而も、紀元前第五世紀を通じて依然大なる發達を遂ぐること能はざりき。犂は今や鐵片を取り附けらるゝに至りたりと雖も、（Bent, Cyclades, p. 97.）、而もホメーロス時代のもの以上に大なる進歩を示すことなく、又休耕地法より、更らに經濟的なる耕地法への推移は頗る遲々たるを免れず。而も耕地は休養の必要より、猶ほ二部に分たれたるも、曾つて休耕地たらしめられたるものは野菜を植え附けらるゝに至り、農民は冬蒔き、春蒔き及び休耕の三圃農法をすら實施し始めたり、彼れ等は又其の注意を施肥の問題に拂へり。而も猶ほ第一等の肥料たる下肥は園藝的農產物のみに施されたり。田畑には家畜小屋より の肥料を施せり。一部の農民は他に比して大なる洞察と精力を示し、荒蕪地を購入、開發し、著しく其の價格を增進せしめて再び之れを賣却し、以つて大なる利潤を擧げんことを期せり。アッチカに於いては、穀物耕作地は其の全面積の一割六分乃至二割以上に擴張せらるゝことなく、如何なる年に於いても耕作し得る土地の僅かに一部のみが實際に耕作せらるゝに過ぎずして、穀物耕作地は事實五、六萬鍬を出でざるの事實によりて其の生產力は減殺せられたり。加之、アッチカの大部分は小麥を產するに適せずして、大麥に對する小麥の割合は紀元前三百二十九—八年に於いては三十八萬七千三百二十五メディムニィに對する三萬九千五百メディムニィ、即ち九・八に對する一に過ぎず。實に穀物の總產額四十二萬六千八百二十五メディムニィの九割は大麥なりしなり。農業に關する論著の著さるゝこと多きに至り、羅馬の農業論者ヴァロ（Marcus Terentius Varro Reatinus）は希臘書を參照すること五十部以上に及べり、洵にアッチカに於ける集約的科學的耕作法の發達が縱し大都市の人口を給養するに貢獻する所ありしとするも、而も到底其の最盛時の人口三十五萬の消費額二百十萬メディムニィを供給するに足らず。前記紀元前三百二十八年には國內の生產額の四倍、即ち一百六十萬メディムニィを輸入せざるを得ざりき。〆足の一部は其の

植民地より補給せられ、三百二十八年には猶ほ同國の所領たりし三島は四十一萬三千八百七十五メディムニィ（其の内二割六分は小麥）を生産せりと雖も、而も彼れ等が貿易に充て得たるは僅かに一半に過ぎず。斯くて雅典は平年十二萬乃至十三萬メディムニィを國外より輸入せざるを得ざりしなり。（Cambridge Ancient History, V, op. cit., pp. 12-14; Glotz, op. cit., pp. 255-8.）。

アッチカは家畜飼育に對しても好條件を供ふるものに非ず。雅典人は又第五世紀よりして國内に於いて充分なる材木の供給を看出すこと能はざるに至れり。吾人は此の國に於ける集約的農業の發達を葡萄園、果樹園及び菜園に求めざる可らず。希臘の農業家は殊に果樹栽培家なりき。クセノフォンの「經濟學」（Οἰκονομικός）中の人物イスコマッコスは特に彼れの栽培地に關心を有するものなりき。貸地人は葡萄樹及び橄欖樹を其の借地に植え附けて彼れの地所の價値を増加せしむるが爲めに、甘んじて即時の收益を犧牲たらしめんとせり。西紀前第四世紀に於いて數年間に地所の價値が二倍若しくは三倍と爲れるの事實存するは、之れに對して新方法が聰明に適用せられたるに由るものなり。斯くの如きは大小の地主の等しく行へる所のものなり。紀元前三百九十三年の春に成れるアリストファネス（Ἀριστοφάνης）の喜劇「婦人議會」（Ἐκκλησιάζουσαι）中の人物たる一葡萄栽培家は、彼れが其の葡萄の房を賣りて、銅貨を頰張りて大麥を購入するが爲めに赴けることを物語りつゝあるなり。（Ecclesiazusae, 816-822.「前史」一〇九頁參照）。アッチカに於いては又、市場向菜園及び花園の發達を見たり。

地主は是れ等有利なる諸種の栽培に其の土地を供用して大なる利潤を擧げ、其の地産の價値を著しく増加せしむるを得たりと雖も、之れに附隨せる危險存せざるに非ず。大地主は氣遣ひなく其の方法を新式ならしむるを得て、莫大なる利益を取得す可きこと確實なりと雖も、而も其の財産を増加せんと欲したる小農民は多難の年月を忍ばざる可らず。彼れ等は可成りに大なる支出を要し、而して若し彼れ等にして之れを借入に俟てりとせば、彼れ等は頗る危險なる道に就けるものと稱せざるを得ず。加之、耕作法の劇變は危機を伴はずして生ずることなし。クセノフォンは穀物及び葡萄酒が豐富にして其の價格低落する時は、農業は有利ならざるに至り、多數の農民は土地の耕作を廢して、商業若しくは貸金業に走り、又は旅館を經營するに至る可きことを說けり。（De Vectig., iv. 6.「前史」二七八頁參照）。小葡萄栽培業者若しくは市場向小菜園業者にして是れ等の障害に打ち勝つことを得たりとせば、集約的方法は固より彼れ等を利するものある可し。然れども、彼れ等は所有地の過度の分割より生ずる不幸なる結果を防止するに成功せずして、却つて之れを甚しからしむるものありき。そは之れに堪へ得たる小農民の狀態を改善するに資せりと雖も、然らざる者は是れに由りて其の沈淪を一層速かならしめられたり。耕作の可動性は一層の可動性を土地に與へたり。そは又浮動資本の一種に地産を變ぜしむるに資し、而して大所有地の構成を助長せり。（Glotz, op. cit., pp. 261-2.）。

十一

穀物耕作より無花果、橄欖及び葡萄の栽培に移り、酒と油とを他の諸邦に販賣し、穀物の供給を他に仰ぐに至りたる雅典は又、陶器、武器及び織物等の工藝品を國外に輸出せり。西紀前第五及び第四世紀に於いては工業は經濟

的に又社會的に重要なる地位に立ち、人民の大部分は工業に衣食するに至れり。

然れども、此の時代に於ける工業の主たる特徴と觀る可きものは、極めて單純なるものを除きては、何等機械の存在なき事是れなり。是れに由りて工場制度の發達は阻止せられ、資本家が職人を壓潰す可き危險は尠少ならしめられたり。紡織及び衣類の仕立の如き工業は傳統的に家族的基礎の下に組成せられたり。然れども、此の範圍に於いては、生産は遙かに家族的所要以上に出で、餘剰の産額は地方市場に向つて供給せられ、其の獨特の産物は希臘全土に於いて需要せらるゝに至れり。陶工の仕事場は原始的工場の一種と看做さる可きものなり。然れども、前述せる石工場に於けると等しく、親方は其の徒弟と同樣に勞作せり。釉藥を掛け、修正するが爲めに用ひらるゝ種々なる色の精選せられたる粘土の外、主要なる資料は粘土の天然色に光輝を與ふるが爲めの絹呉呂、車輪及び型、定規及び兩脚規、スケッチ用の尖頭器及び各種の刷毛より成るが故に設備及び資料に投下せらるゝ所のものは大なること能はず。(E. Pottier, Douris and the Painters of Greek Vases, trans. by B. Kahnweiler, 1909, p. 26.)。

種々なる職業に在りて、原料品は屢々消費者によつて供給せられたり。原則として工匠は其の勞働以外の何物をも賣るものに非ず。各職は自己の町内に集中せり。斯くて雅典には箱屋町あり、彫刻師町ありて、商賣敵は軒を並べて生活せりと雖も、彼れ等の間には近代的意義に於いての競爭存するとなく、單に同一勤務の遂行に從事し、又其の力の及ぶ限り最良の物品を製作せんとしつゝある者の情味ある張合存したるのみ。總べての者は皆仕事なきに苦むことなく、又弱者は強者によつて壓倒せらるゝことなかりき。諸職は自己の組合を有したるも、そは經濟的利得を目的とし、自己の利益を保護するが爲めに非ずして、社交的、宗教的基礎の上に結合せるものなり。彼れ等は富を望まずして、寧ろ名譽と相當なる生計とを求めたるが故に、彼れ等は價格を引き上げ、若しくは引き下ぐることなく、其の商品の價格をして慣習の決定するがまゝに委せり。

然れども紀元前第四世紀に在りて、貨幣經濟の浸漸に連れ、營利心が次第により、高尚なる欲情を征服し去らんとしつゝありし事實は、プラトーンの如き哲學者が貨幣を以つて第一位に置かんとする過度の營利的精神を排斥し、市民が不當なる貨殖を計るを至難ならしめて、財産上の不平等の發生を防止せんとせるに徴しても明かなる可し。(「前史」一五七頁其の他參照)。希臘哲學者に在つては、經濟上の問題は常に正義の問題と緊密に結合せられたるが、プラトーンは公正の價格を論ずるに際して「或る人が或る仕事を引き受けたる時は、賣手に對して與へたると同一の忠告を彼れに與ふ。即ち彼れは其の價格を引き上げんと企つることなく、單に其の價値を求む可きものなることは是れなり。法は又、之れを仕事を引き受けたる人にも命令す。蓋し工匠は當さに其の仕事の價値を知るが故なり」と論ぜり。(Legg. XI, 921B.)。即ちプラトーンは財貨が往々にして其の交換せらるゝ割合を異にするも、而もそは確然たる割合に於いて交換せらる可きものなることを主張するなり。然らば、其處には公正の價格の準據す可き測定し得る共通の品質たる價値の概念存在せざる可らず。爰に所謂「價値」なる語は ἀξία なり。ἀξία は ἄγω より出づ。後者の有する種々なる意味の中には「秤る」若しくは「何々の重量を有する」と云へる意味を認むることを得るなり。斯くては ἀξία は一方に於いて重量を意味すると同時に、他方には重要性を表示する意味に於いての重量、

即ち價値をも亦、意味す。價値は物其の者に固有なる品質にして、價格は必ず之れに對して支拂はる可きものなり。而してプラトーンは這般の本體が何たるかを論ずることなかりしと雖も、而も彼れの時代に於いて、工匠が其の仕事に對して要求するものが、往々にして其の價値に對して均等を失するものあることを示しつゝあるなり。

然れども、貨幣經濟は未だ全く自然經濟を排除するに至らず。家内仕事は根强き存在を職業的工業の傍に看出せり。實に利潤獲得を目的として他に販賣するが爲めに行はるゝ工業は家事經營を目的とする家内仕事より發達せるものなり。一家の所要を超過せる餘剩生産高は之れを賣却せざる可らず。斯くの如きは確定の意志なくして生ずることあり得るも、遂には專ら生産物を賣却するを目的とせる純然たる營利行爲として行はるゝに至るなり。然れども前揭織物工業の如き、其の特殊の職業として遂行せらるゝに至りて後も、其の生産高は大なるを得ず。全然販賣を目的として行はるゝ諸工業に於いても、猶ほ家内仕事の一定の根跡は殘存せり、而して如何なる場合に於いても無數の勞働者を使傭する大工場に類するものゝ存在を見ることなかりき、彼のシュラクーザ人ケファロス（Κέφαλος）が紀元前四百三十五年を以つてピラェエオスに創設し、其の子等に傳へたる大製楯場の如きは全然例外的のものなり。デモステネスの父の寢床製造場及び甲冑工場は之れに次ぐものなるも、僅かに二十名の指物工と三十二、三名の具足工を有するのみ。チマルコスの製靴所は九名若しくは十名の靴工を有したるに過ぎず。（「前史」二一四頁）。恐らく紀元前三世紀の頃に生存せりと推定せらるゝ諷刺詩人ヘロンダス（Ἡρώνδας 若しくは Ἡρώδας）の抑揚格の詩「靴屋」（Σκυτεύς）中の人物も十三人の職人を有するのみ。代表的の仕事場は恐らく親方と精々二三人の勞働者を容るゝに過ぎざるものなりしなる可し。古代希臘に於いて、多數の勞働者を使役するを常態とせるは獨り鑛業のみなりき。而して鑛業に於いてすら一鑛山に於いて勞作しつゝある奴隷の數は一百人以上に出づること稀れなりしが如し。（「前史」二一四―五頁參照）。

洵に雅典人にして産業に從事する者は其の企業を膨脹せしむ可き限界を知れり。クセノフォン曰く、「總べて農圃を有する者は、幾聯の牛及び幾人の勞働者が其の所有地に取りて充分なる可きかを知るを得可く、而して彼れ等は必要以上を其の耕地に送るを以つて損害と觀る」と、（De Vectig., iv. 5.「前史」二七八頁）。而して工業に從事する者は又、彼れ等が何人の勞働者を要するかを精確に知悉し、而して是れ以上に其の勞働者の數を增加するは單に彼れ等に損失を與ふるものに過ぎざる所以を熟知せるなり。需要は著しく制限せられつゝあるが故に、不斷に生産を行ひ、又はストックを增加せしむるは決して彼れ等に取りて有利には非ざりき。クセノフォンは這個一般産業と事情を異にするものは獨り銀山業あるのみと觀たり。（ibid., 7-9.「前史」二七八―九頁參照）。

極めて多くの生産者は仲介者を經ずして其の生産物を直ちに消費者に賣却せり。然れども、プラトーンの言を借りて云へば、輸入品を要することなき地域に都市的國家を建設するの一事は殆んど不可能なるが故に、他の諸邦より自邦に所要の貨物を輸入する商人を必要とするに至ると等しく、又都市的國家其の者の内部に於いて、其の住民が各自生産せる貨物の相互交換を行ふは賣買の手段に依るものにして、而して交換の媒介物が兩生産當事者間の物々交換に代へて、仲介人に依る交換の仕組を可能ならしめたる時、生産者が自ら市場に出でゝ其の貨物を販賣する

が爲めに、此處彼處に佇みて待つは、彼れに取りて時間の空費たらざるを得ざる可く、而して斯くの如き任務は仲介人の引き受くる所と爲るなり。（「前史」一五六―七頁並びに同一一〇―一頁參照）。斯くの如き仲介人たる小賣業者（κάπηλοι）の或る者は其の商品を市街の彼方此方に呼賣し、若しくはアゴーラ又は其の他の場所に設けられたる床店及び店舗に之れを陳列して販賣せり。彼れ等の中、市民は極めて少數にして、プラトーンは彼れ等の遂行する任務を是認し、是れ等の階級に對して同情を有したるが如きも、而もアリストテレースは毫も斯くの如き任務を承認することなく、從つて又、彼れ等が何等かの報酬を受くるの正當なる所以を認むることを拒めり。（「前史」一五六頁並びに同一七一、五頁）。他の小賣業者は進軍中の軍隊の後に續き、又は大祭典及び緣日を訪れ、若しくは村より村に其の貨物を行商せり。然れども這個陸上に於ける商業は其の國土の山多きこと、良路及び交通機關の缺乏、並びに其の結果たる輸送費大なるの事實に妨げられて何等顯著なる發達を遂ぐること能はざりき。

十二

アリストテレースは彼れの所謂不自然なる取財術、即ち交換の中、最も重要なる部分を占むる商業の第一として海商を擧げ、之れに次いで運輸業即ち內地商を、而して第三に店商業を置けり。（Pol., I. 8.「前史」一七五頁）。洵に希臘の商業は其の國土の地理的狀態に基き多く海上貿易なりき。早くよりして海路の運賃は陸路の其れに比して低廉なりしが、航海術は紀元前第五世紀に於いて著しく發達し、大船舶は建造せられ、船員の大海に對する恐怖心は減少し、船舶の速力は增加するに至れり。而して、希臘の貿易に對して其の全致動力を與へたるものは雅典なり。而も、雅典は凡そ紀元前第五世紀の中葉に至るまでは、其の競敵に打ち勝つことを得ざりき。紀元前第六世紀を通じて特に此の方面に於いて活動せるものはイオニアの諸市なり。然れども紀元前五百年に於けるイオニア叛起の失敗、アナトリアの海岸と波斯の脊地間の貿易路閉鎖、雅典の政治的覇權及び商業的企圖、並びに西地中海の重要性增加は相結合して是れ等諸都市の行ひ來りたる貿易の多くを希臘の諸港に移讓するに至らしめたり。而も希臘諸邦の多くは農業に專念して、他を顧みるの暇なく、新たに與へられたる商業上の好機に乘ぜんとせるもの〻數は決して多からず。就中、前景に立てるものはコリントス、エーヂーナ及び雅典の三者なり。

雅典は彼のソローンの時代に於いては其の全力を擧げて商業的膨脹の政策に盡瘁するが爲めには、農業との抱合餘りに緊密に、國內の確執によつて攪亂せらるゝこと餘りに大なりき、然れども其の後、僭主等によつて確保せられたる久しく持續せる平和と繁榮、クレイステネスによつて行はれたる政治的改造、及び其の重要製造品特に橄欖油及び陶器の發達は同國をして商業的爭覇戰に參加せしめたり。其の結果は長きに亙れるエーヂーナとの苦鬪と爲つて現れたり。波斯王ダレイオスが大地と水とを要求するが爲めに希臘に使者を遣したる時、エーヂーナ人は半ば雅典人に對する憎惡より、半ば波斯王國の沿岸に於ける其の廣大なる商業を擁護せんとするの希望よりして是れ等降服の徵證を與へり。（Herod., vi. 49.）。彼れ等は此の所業に由つてスパルタ人の爲めに懲膺せられたり。爰に於いて乎、クセルクセースの遠征に際しては彼れ等は其の同胞に味方し、サラミス灣頭の戰に於いては花々しく戰へり。初めコリントスは雅典が彼れ等の共同の敵を壓倒する上に於いて自國に有利なる可きを期待し、此の新競爭者に好

意を寄せたるが如し。而して同國が、雅典は彼れ等の共同の收果を分配せんとするの意志を有することなく、又之れをコリントスの手中に殘すの考へに至つては更らに乏しきことを悟りたる時は既に遲かりき。紀元前四百五十九年より同八年に亙り、同國はエーヂーナの非運を回避するが爲めに必死の努力を行へりと雖も、而も其の甲斐なく、エーヂーナは長き封鎖の後、デロス聯盟に加入して進貢するに至り、軈がて又紀元前四百三十一年には其の住民の多くは同島より驅逐せられ、雅典の植民地（κληρουχία）と爲れり。（Cambridge Ancient History, vol. V, op. cit., 17-8.）。

斯くしてエーヂーナとの鬪爭より免れたる雅典は更らに有效に西方に於いてコリントスと相爭ふことを得たり。此處には紀元前第六世紀以後絶えずアッチカの陶器が其の聲價を高めつゝありしなり。コリントス灣の北岸に於ける最良の港を有するナウパクトスが波斯戰役以後雅典人の手中に歸せること、同戰役後、暫くコリントスと戰へるメガラが雅典と同盟を結び、紀元前四百六十一年、市内に雅典の守備隊を受け容れたるが爲めに雅典は直接コリントス灣に近寄るを得たること、並びに同灣の南岸なるアカエアが雅典と同盟を結ぶに至りたることは、同國をして西方の海路をコリントスに對して閉鎖するを得せしめたり。雅典はサラミスの戰に於いて同國に齎され、而して紀元前四百六十九年のエウルュメデドン川の其れに於いて確證せられたる默示によりて、其の海軍力を發達せしめ、海上の帝國と爲り、其の商業をあらゆる方面に擴張せんことを期せり。テミストクレスの提議によつて、ピラェエウスの町は強固なる堡壘を築かれ、ペリクレスの時代に設けられたる長城によつて雅典と連絡せしめられ、而して同半島の三要港、即ち西側に於けるピラェエウス本部、東側に於けるゼェア、更らに東寄りのムニュキアは充分に利用せらるゝこと、爲れり。ピラェエウスの大港の北部は三小港に分たれ、ゼェアは穀物船に、アプロディシオムは一般商船に、而してカンタロスは戰艦に充てられたり。舶來貨物卸賣市場（ἐμπόριον）は開設せられ、埠頭は建設せられ、倉庫は建設せられたり。地中海及び黑海のあらゆる方面より幾百艘の船舶は穀物、酒類、鐵、黃銅、干魚、亞麻、大麻、材木、烟脂（タール）、木炭、奴隷其の他の貨物を積載して此處に入港し、而して油、葡萄酒、乾無花果、蜂蜜、陶器等の雅典の財貨を積み込みて出港せり。商人が其の賣品の見本を陳列するディグマ（δεῖγμα）（Harpocrat. s. v. Hesych.; Pollux, ix. 34; Aristoph., Eq. 979.）及びペリクレスの創設せる穀物取引所（σιτοπώλις）の如き柱廊附きの大建築は、獨り實用のみならず、美觀をも亦與へたり。而してピラェエウスの町は初めて幾何學的原則の上に都市を建設するの計畫を立てたる偉大なる設計家ミレートスのヒポダマス（「前史」二五〇―一頁）の設計に從ひ、交叉路を以つて方形の街廓に區劃せられ、此處に希臘及び異鄕の神々の廟祠、店舗及び旅館立ち列び、世界的の住民充滿せり。（Cambridge Ancient History, vol. V, op. cit., pp. 18-20.）。

十三

斯くの如き紀元前第五世紀に於ける雅典の壯觀は、洵に同國にして他の重大なる負擔を荷はしめらるゝことなかりしならんには、食料及び原料の不足に附帶せる國難に打ち勝つことを得て、此の國は永き商業的繁榮の時代を享有するを得たるなる可しと做すの感を抱かしむるものあり。同國の荷はしめられたる大負擔とは何ぞや。國家の行

へる大工事是れなり。カニンガム教授曰く、「國家としては、彼れ等の利己的野心が彼れ等の富と力の根元を顚覆し、而して都市としては彼れ等の技巧と財寶は、ペリクレスによりて不生産なる公の工事に濫費せられたり」と。(Cunningham, op. cit., p. 119.)。

ペリクレスは偉大なる公事業を興すに由りて、一方には雅典の威名を高むると共に、他方には貨幣を流通せしめ、市民に對して職を與ふ可きものと信じたるなる可し。雅典の威名を高からしめんとして彼れの行へる所のものが果して單に其の同盟諸邦の嫉妬心を高からしむるに資せるに過ぎざりしや否やは姑く之れを問はざるも、(Ploutarch, Pericles, 12.)、而も彼れによつて指導せられたる雅典市民の活動力の方向が、政治的勢力としてよりも、寧ろ經濟的都市としての雅典の産業的及び商業的生活の永續的繁榮を助成するものに非ざりしことは明かなり。チュロスに輸入せられたる奴隷勞働及び其の取得せる資料は製造工業品に利用せられ、而して是れ等の製造工業品は他の諸邦に賣却せられ、斯くて又富の源泉を創造し、そは工業の更新及び發達の爲めに更らに多くの資料と更らに多くの勞働とを取得するの手段を與へ、斯くて又更らに大なる富の增加に對する機會を供したり。之れに反してペリクレスの興せる事業は何等經濟的目的に資する所なく、是れよりして貨幣上の收益を擧げ、又は他の地方に輸出せられ、若しくは更らに大なる富の生産に利用せらるゝことを能はずして、之れに投ぜられたる技巧と財寶とは永久的に回收せらるゝことを得ず。ペリクレスは人民の爲めに有利なる仕事を求むるに努めて、彼れ等の精力を不生産的なる公の工事に向はしめたり。彼れの指揮の下に建立せられたる宏壯なる建築は同市の富を吸收したるに拘らず、之れに對する報酬として何等の自然的資源若しくは通商上の便宜を發達せしむることなかりしなり。財寶は唯だ之れを限りに消費し去られて、産業若しくは商業に使用せられたる資本より生ずるが如く、之れを償却するの方法存することなし。そは美術的には卓絶せるも、而も經濟的には無價値なる形態裡に閉鎖せられたるなり。カニンガム教授は斯くの如くに觀る。(Cunningham, op. cit., pp. 119-121.)。

純然たる國家的強大と經濟的繁盛の見地よりすれば、其の獨立が外國貿易に依賴する雅典は其の壯大なる建築に國家の資源を蕩盡することなく、恐らく先づ其の海陸の軍備を固め、之れを擴張する努力を續行し、而して次第に國内に增加しつゝある、土地を喪へる貧民の勞働を利用して、國産を發達せしめ、輸出を增加するの政策を施す可きものなりしならん。

黑海を制するの一事は大國としての雅典に取りて絶對の必要なるに拘らず、同國はビュザンチオンに於いて海峽を守り、極めて狹小なる緣邊の領域を保有するに過ぎずして、眞に此の死活的重要の地點に陸上より接近することを得ず。亞細亞側に於ける波斯若しくは其の反對側に興起す可き歐羅巴の强國は何れも雅典の存在を脅すことを得可し。雅典にして北方及び北東に更らに多くの領土を獲得するに非ざれば、同國をして能く其の經濟的破滅を免るゝを得せしむるものは獨り其の海軍力あるのみなり。西方の商路を扼するものはコリントスなり。此の時代の小船舶はペロポンネソス半島の南なる危險なる海洋を避くるが爲めに此の狹小なる地峽を越えて曳かれたり。此の行路をして眞に安全ならしめんとせば、事實上希臘の全部を統治することと必要なりしなる可し。埃及並びに東洋の財貨の

供給を得せしむる南方の商路も亦、等しく海軍力によつてのみ獨り通行の自由を保ち得るものなり。北南の兩通路を脅せる波斯は雅典の沒落する久しき以前に於いて既に瀕死の狀態に在りしも、而も若し雅典以外のものが之れを覆せりとせば、東洋の商路の末端に於ける他の諸市は東方地中海の商業を支配す可く遙かに良好なる地位に立つに至る可し。（Knight, op. cit., p. 41.）。

實に「雅典は其の海洋の支配權に依りて、シキリア、伊太利亞、キュプロス、リュディア、ポントス及びペロポンネソスの最上等なる產物の總べてを一處に集むることを得」しなり。（Xenoph., De Rep. Ath., ii. 7.）。而して雅典及び其の他の希臘諸邦は固より武力に依りて貿易の安固と獨立とを確保するが爲めに、其の最善を致せり。（前揭「雅典國の收入」二九—三〇頁參照）。而して雅典の敵は又同國の供給を遮斷するに由りて容易に之れを損傷し得ることを知悉せり。斯くの如き事實は、不幸にしてペロポンネソス戰役の時代に於いて十分に立證せられたり。雅典は同國が陸上に於いては、最早スパルタを阻止すること能はざるに至りたる時に於いてすら、尙ほ其の對抗力を維持することを得たるも、紀元前四百〇五年、エゴスポトミイの海戰に於けるリュサンドロスの勝利は同國をして飢饉の襲來に惱ましめ、終に之れに致命的打擊を與へたるなり。（cf., Xenoph., Hellenica, V. iv. 61; Diodorus Siculus, xv, 34.）。而してマケドニアのフィリッポスはポントスよりの供給を遮斷するの目的を以つてビュザンチオンの占領に努力せるなり。（Demosth., De Corona, 87, 254.）。（前揭「雅典國の收入」三九頁）。

縱令ひ、雅典が其の最盛時に於いて不生產的大土木に其の資源を蕩盡することなかりしとするも、かのチュロス及びミレトスが遂に波斯人の攻擊に對抗することを得ざりしが如く、果して能く當時の政治的狀態に於いて其の自由を維持し得る底の海陸の軍備を整へ得しや否やは疑問なり。然れども吾人は尙ほ此の國を衰弱せしめ、其の國富と國力との衰頽をして一層確實且つ急速ならしめたる財政的原因の存することを認めざるを得ず。

十四

アリストテレースの著として傳はる「經濟學」は、都市的國家の經濟、即ち政治的經濟の收入中に在りて、最良のものは土地の特產物、特に鑛山より生ずるもの、第二は港に於いて賦課せらるゝ通過稅及び之れに類する課稅、第三は日常生活上の事項より生ずるものと做せり。（Pseud-Aristot., Œcon, II. ii.「前史」一二一—一二頁參照）。然れども雅典が地所、家屋、石山及び其の他の公有財產より擧げ得たる高はラウリオンの銀山並びにマケドニア及びトラキアに於いて取得せる金銀山より生ずるものを除きては、恐らくさまで大なるものには非ざりしなる可し。ラウリオンの銀山の採掘料は雅典の重要なる收入の泉源なりしも、ソクラテス及びクセノフォンの時代に於いて既に其の產出額を減じ、ストラボンの時代以前に於いて全然採掘し盡されたること吾人が他の機會に於いて述べたるが如し。（前揭「雅典國の收入」六—八頁參照）。借主ペイシストラトスはアッチカの土地の上に其の產物の十分の一若しくは二十分の一の租稅を賦課し、是れに由りて、少くとも以前には土地を有することなかりし者に對しては毫も大なる負擔たることなきの觀ある堅實なる收入を擧ぐることを得たり。然れども彼れの後繼者の財政制度は斯くの如き直接課稅を以つて、非常手段たる外は、市民の自由を侵害するものと做せる民主々義の政府によつて拋棄せら

れたり。然れども、雅典人はペロポンネソス戰役の壓迫によつて、紀元前四百二十八年に初めてエイスフォラ（εἰσφορά）と稱する財産稅を賦課し、レスボスの大部分の叛起を率ゐたるミチュレーネ攻圍の費用を辨ずるが爲めに二百タラントンを擧げてより、頻々として之れを徵收するに至れり。（同一七―九頁參照）。

ピラェエウスに於いて徵せられたる輸出入品に對する從價一分、後に至つて二分に引き上げられたる海關稅に就きては甕きに一言せるが、其の適度の稅率は國家をして計畫的脫稅を防止する複雜なる手段を講ずるの必要なからしめたるに拘らず、國家に取りて重要なる收入の泉源を形成せるものにして、吾人はクセノフォンの著作に據りて、獨り奴隸に對する輸入稅のみにても著しき高に達せることを推知するを得可し。雅典人にして彼れ等の堂々たる商業的地位を能ふ限り利用するに努めしならんには、彼れ等は頗る著大なる貿易を發達せしめしなる可し。然れども、未だ機械の使用を見ざりし當時の工業に於いて、大規模の工業的生産を發達せしめんとせば、勢ひ「生ける機械」即ち奴隸の使用を大ならしめざる可らず。大規模の奴隸工場の增加は又、民主的雅典國の事實上の支配者たる小工業者の利益を脅すものたらざる可らず。是れ當時に於ける民主的政治家の到底斷行し得ざる所なり。

國境に於いて徵收せらるゝ租稅に關しては何等の證左なきも、紀元前四百十三年、雅典は同國に從屬する同盟諸邦よりの貢納を悉く廢止し、是れ等附庸同盟國に於いて海路を經て輸出及び輸入せらるゝ總べての貨物に對して五分の關稅を課し、是れに由りて其の收入を增加せんことを期せり。（Thucyd., vii. 28.）。（前揭「雅典國の收入」五―六及び一〇頁參照）。其の前數年に於ける貢納は蓋し一千タラントン若しくは其の以上に昇れるの觀あるが故に、進貢諸邦の海港を通過する貿易高は二萬タラントンを超過せるなる可し推定せらる。其の他、凡そ紀元前四百三十四年の布告中に擧げられたるものに一割の課稅（δεκάτη）あり、（Inscriptiones Graecae, Editio minor, I. 91）、其の性質は布告に表示せられざるも、而も、黑海を出入する船舶の積荷に賦課せられたるものと推定せられ、スパルタ王アルキダーモス（Ἀρχίδαμος）一世との戰役に於いては恐らくヘレスポントスの警備隊（Ἑλλησποντοφύλακες）によつて徵收せられしなる可きも、四百十年アルキビアデス（Ἀλκιβιάδης）、ツラシュロス（Θρασύλλος）及びキュヅィコスより來れる他の雅典の將軍等がカルケドンの領域內に於ける海港クリュソポリスに壘壘を築ける際に復活せしめられ、同港に之れを徵收するが爲めの稅關（δεκατευτήριον, δεκατηλόγια）建設せられ、黑海より出ずる總べての船上の貨物に十分一稅を課するが爲めに、三十隻の船舶は兩將軍の指揮の下に派遣せられたり。雅典が此の租稅によりて大なる收入を擧げ得たることは、其の稅率の高きと此の海峽が往來頻繁なりしより推して直ちに之れを想像するを得可し。而も雅典人は先づエゴスポタモスの敗北（紀元前四百〇五年）に由りて此の稅金を奪はれ、次いでアンタルキダス（Ἀνταλκίδας）の媾和條約（約三百八十七年）によりて再び廢止せられたり。（Böckh, a. a. O., III. 6. 前揭「雅典國の收入」一〇頁）。加之、雅典は市場に於いて販賣せらるゝ總べての物件に對して ἐπώνιον 若しくは ἐπώνια と稱せられたる消費稅、國家の有司の前に於いて締結せらるゝ賣却に對する租稅、居留外人に對しては每年十二ドラックメ、奴隸及び被放民に對しては半ドラックメの課金、又神占業者、奇術師、醜業婦の如き特殊の取締を要する一定の職業を行ふ者に對する租稅を徵收せり。（「雅典國の收入」一一―一二頁參照）。富裕なる市民は彼

れ等自身の所有地に於いて彼れ等自身の生活維持の方法存したるが故に、恐らくは是れ等の課税の或る者を免るゝことを得たるならんも、而も是れ等のものは貧困なる市民に對しては間接の負擔を形成し、而して又外來民は是れに由りて大なる壓迫を感じつゝありしなり。

雅典の財政に於いて重要なる役割を演じたるものはデロス聯盟に參加せる諸邦によつて、最初は波斯戰役の費用に對する任意的寄附として、後には附庸諸邦より要求せられたる貢納として支拂はれたる高なり。然れども這般の貢納は、或ひは戰爭の爲めに生じたる攪亂に由り、或ひは同盟國の背反に由りて、屢々其の支拂不規則と爲り、全然停止せらるゝことすらありしが故に、不安固、不確定なる收入たるを免れざりき。（同二一—六頁參照）。

希臘諸邦の總收入に就きては、吾人は知る所少なきも、而もそは今日より觀て、當然頗る少額ならざるを得ず。ヘロドトスは、蓄藏多き金坑を有して著しく富裕なりしタトスの收入を以つて、平年二百タラントン、最良の年に於いて三百タラントンと看做せり。（Herod., vi. 46.）。ペロポンネソス戰役勃發の當時、ペリクレスは、雅典國が同盟諸邦より年々收納するものゝみにて、同國の他の所得泉源を加算することなきも、六百タラントンに達する旨を說きて其の國民を鼓舞せり。（Thucyd., II. 13.）。而して貢納の割當表は、是れ等の言辭が其の儘に承認せられ得ざることを示すも、而も是れ等のものは此の國の外部的收入を正確に概說するものなる可し。內部的收入に關しては信賴す可き資料を缺くも、四百タラントン未滿なることは殆んどあり得ざる可く、幾分之れを超過せるなる可し。（Cambridge Ancient History, vol. V, op. cit., pp. 28-9.）。

這般の收入は能く雅典國の經常費に應ずるに足れり。殊に課稅によりて徵收せられたる著しき金額存すると共に、市民は又主として公務の直接遂行によりて彼れ等に割り當てられたる所のものを貢納せるの事實に想達せば、吾人は一層其の然る所以を看出すなる可し。實に重大なる經費を包含する一定の勤務の費用は國庫によつて負擔せられずして、個人的に富裕なる市民によつて負擔せられたり。其の財產が三タラントン以上に達したる雅典市民に課せられたる勤務（λειτουργίαι）中常例のもの（ἐγκύκλιοι λειτουργίαι）は演劇及び演奏を伴ふ國祭に於いて音樂上の競技を行はしむ可き歌舞隊を準備するコレギア（χορηγία）、運動競技者を訓練し、其の練習中適當なる食事を之れに供し、競技に際しては必要なる配備及び裝飾を現場に施すギュムナシアルキア（γυμνασιαρχία）等にして、又非常の公務にして主として戰時に課せられたるものは、獨り最富裕なる市民のみに限られたる三段橈戰艦の艤裝を行ひ、一切の準備を整へ、橈手其の他全船員を乘り込ましむるトリエルアルキア（τριηραρχία）なり。ペロポンネソス戰役に於ける一トリエルアルキァの平均的出費は凡そ五千ドラックメにして、コレギアの負擔者、即ちコレーゴス（χορηγός）は場合により三百ドラックメ乃至三千ドラックメ若しくは其の以上をすら費せり。演說家リュシアスに訴訟を依賴せる者の一人が紀元前四百十一年より四百〇三年に至る間に於いて公務に費せる高は、九タラントン二千六百ドラックメを降らざりしが、而も此の高は彼れの法律上の義務を遙かに超過せるものなりき、初め公務の設定せられたる時代に於いては、富裕階級の政治上の特權が其の財政上の負擔よりも更らに大なるものありしが、其の後に至りても、公務の執行は其の當事者に財政上の負擔を荷はしむるよりも、寧ろ榮譽を與ふること大なる市民の

特權と看做されたり。而も不斷の戰役が富裕階級を疲弊せしむること大なるに至つて、初めて財政上の負擔が、之れより生ずる名譽よりも顧慮せらるゝこと大と爲るなり。(M. L. W. Laistner, Greek Economics, 1923, p. xxiv.)。（「雅典國の收入」一二—七頁參照）。クセノフォンはソクラテスの口を借りて當時の富豪が其の名聲を維持するが爲めに支拂はざるを得ざりし犧牲の頗る高價なりしを物語りつゝあるなり。(Œcon., ii. 4-6.「前史」六六—七頁)。

十五

ペリクレスの時代に於いて雅典の收入の源泉が擴張せしめられたることは事實なるが、而も之れと共に多數の新たなる負擔の生じたることも亦事實なり。無數の祝祭、演技、及び饗宴は擧行せられて、一般人民に對し無料を以つて提供せられたり。洵にデモステネスの叫べるが如く、雅典人は常に全海軍に對して費さるゝよりも大なる財寶を祝祭の爲めに投じたり。(Demosth., Philippic I.)。例へば紀元前四百十五年にはパンアテナエア例祭の經費として九タラントンを可決し(Inscriptiones Graecae, Editio minor, I, 302)、同四百十年には軍事上の必要により財政逼迫の秋なりしに拘らず、パンアテナエア大祭の爲めに六タラントン以上を借り入れたるが如き是れなり。(ibid., I, 304.)。（「三田學會雜誌」第二十卷第九號所載拙稿「波斯戰役以後の雅典に於ける社會思想」二〇頁參照）。

然れども、雅典は又決して其の軍備に於いて吝かなるものに非ず。かのテミストクレス（Θεμιστοκλῆς）がラウリオン銀山の收益を雅典市民の間に分配することなく、之れを船艦の建造に充つ可きことを說きてより、船艦の建造は國家に對する年々の負擔と爲れり。加之、平時に於いてすら、騎兵隊の維持、兵器及び船員の準備、帝國內の重要なる地點に於ける巡察隊及び守備隊の支拂等海陸軍の施設に費さるゝ所は決して尠少なりとせず。而して兵役に服する市民に對して手當を支給するの制度を創始せる者も亦、ペリクレスなり。(Ulpianus, ad Demosth. περὶ συντάξ p. 50A.)。（「波斯戰役以後の雅典に於ける社會思想」一二二—四頁參照）。雅典市內の秩序は警吏たる弓手によりて維持せられたり。彼れ等は大部分スキュチア產の奴隸より成れるが故にスキュタエ(Σκύθαι)と稱せられ、初め三百人より成りしも、次いで六百人に增加し、最後に一千二百人の多きに達せり。雅典には別に又、等しく公奴隸より成る二百の騎射手（ἱπποτοξόται）あり。其の他、公貯藏品の守護者、度量の檢査人、呼丁、書役、監守、勘定方及び死刑執行人の如き官吏の下僕は、大部分（最後の者は常に）公奴隸にして、造幣局の職工、道路吏に屬する掃除人及び修繕人等も亦、之れより成れり。國家は奴隸の購入に由りて其の數を維持若しくは增加し、而して少くとも衣食を備ふるに足るの扶持を之れに與へざるを得ざりしなり。（「前史」二一五—六頁參照）。國家は又公費を以つて支給せらるゝ醫師を有せり。（「波斯戰役以後の雅典に於ける社會思想」一八—九頁）。雅典は其の植民地トゥウリオイと異り、教育其の者には何物をも費すことなかりしが、而も體操練習所及び相撲學校を設け、又時々ピンダロス(Πίνδαρος)及びヘロドトスの如き卓越せる文人に對して謝禮金を賦與せり。(Cambridge Ancient History, vol. V. op. cit., pp. 30-1.)。

ペリクレスは又、前述の如く、雅典に公の大工事を起して、庶民に職を與ふるの策に出でたり。是れより先きキモーン(Κίμων)が戰利品によりてせる衞城(アクロポリス)の南壁を築造し、之れを以つて丘陵の南側に新たに計畫せられたる

アテネ女神殿の基礎工事たらしめたり。而も、其の工事は遲々として進行せざりしが、紀元前四百四十七年、ペリクレスは之れを復活し、紀元前四百三十八年に華麗莊嚴限りなき神殿を完成せり、是れ即ちパルテノン（Παρθενών）なり。金と象牙とを被せたるアテネ女神像は大彫刻家フェイディアス（Φειδίας）によりて此の年に完成せられたり。技術家等は其の注意を衞城の門路に向け、ムネシクレス（Μνησικλής）は壯大なる其の入口即ちプロピュラエオン（Προπύλαιον, Προπύλαια）の設計を爲し、是れに從つて工事は四百二十七年に開始せられたり。是れより數年以前、勝利神アテネ（Ἀθήνη Νίκη）の小神殿の爲めに衞城の西稜に敷地を定めたるが、建築の着手は資金不足の爲めに延引せるも、遂に起工せられたり。衞城の北端に於ける雅典保護神殿（Ἐρεχθεῖον）、下町に於ける火神（Ἡφαίστος）の神殿、即ち所謂テセィオン（Θησεῖον）、海岸のスーニオンに於けるアテネの神殿、及びラムノウスに於ける義憤の女神ネメシス（Νέμεσις）の神殿の如き多數の他の神殿も亦、起工せられたり。

紀元前四百四十年に至るまでに、神の金庫と帝國の其れとは神の出納官の手中に結合せられたり。前記のプロピュラェオンのみにて二千〇十二タラントンを費したりと做すヘリオドロス（Ἡλιόδωρος）の叙述は固より其の儘に承認せらるゝを得ず、恐らく此の金額は前記アテネの巨像を包含するパルテノン並びにプロピュラェオンに投ぜられたる總經費を表示するものなる可きも、而も特に此の時代に於いてアッチカに建設せられたる神殿及び其の他の宗教的建築物が非常の巨費を要したることは之れを推測するに難からず。（Cambridge Ancient History, vol. V, op. cit., p. 29.）。尙ほ其の他奏樂館（ὠιδεῖον）、都市及びピラェエウス港を圍繞、連結し、其の防備を容易ならしむるが爲めに設けられたる第三、即ち中位の長壁、並びにピラェエウスに於ける新泊船所及び武庫の建設及び維持、エレウシス、パナクトン、ヒュレ及びスーニオンの如き要害の地、特に國境の防禦工事、道路、噴水、市場、體操練習所、法廷、議院等の建築及び修繕行はれたり。アルフレッド・ヂンマーン教授は紀元前四百四十七年より同四百三十二年に至る間に於いて費されたる高を概算して、パルテノン七百タラントン、アテネの巨神像一千タラントン、未完成のプロピュラェオン四百タラントン、奏樂館、泊船所、中壁、ピラェエウス港の諸工事を合して三千タラントン、勝利女神の二金像二百タラントン、勝利女神殿を包含する他の記念館二千七百タラントン合計八千タラントン（九千六百萬圓）と做せり。（Zimmern, op. cit., pp. 411-2.）。

加之、ペリクレースの政敵キモーンは大衆の支持を購ふが爲めに、饗宴を張り、老者に衣服を與へ、其の他種々なる方法を以つて民衆に恩惠を與へたるも、彼れは貴族出にして、大地主たりと雖も、而も其の政敵に比して其の資產大ならざりしが爲めに、惜みなく與ふるの點に於いて、他の民主黨首領及び煽民政治家と競爭すること不可能なるを知り、公收入の分配に依りて自己の力の足らざるを補足するの策を案出し、雅典の貧民をして演劇を觀覽せしむるが爲めに共同軍資金中より一人宛二オボリを分配することゝ爲せり。（Libanius, Argum. ad Demosth. Olynth. I. Schol. Lucian. Timon. 49.）。而して此のテオリコン（τὸ θεωρικόν）の制度は紀元前第四世紀に於いて更らに一層の發達を見たり。（前揭「波斯戰役以後の雅典に於ける社會思想」八―一〇頁參照）。國家は戈戰利品よりデルフォイ其の他の神殿に於いて高價なる犧牲を獻げたり。公務に對する支拂は紀元前第五世紀に開始せられて、漸次國

家の資源を枯渇せしめたり。五百人院の給金（μισθὸς βουλευτικός）は同院の集會日毎に一ドラックメを支給せられたり。ディカスチコン（μισθὸς δικαστικός）即ち陪審官に對する支拂も亦、アリストテレースによりてペリクレースに始まるものと記されたり。彼れは民衆の好意を得るが爲めの指價として、又其の政敵キモーンの富に平衡せしむるが爲めに斯くの如き議案を提出せるなり。（Ath. Pol., xxvii. 3.）。（前掲拙稿一一—二頁參照）。斯くて四百二十五年以後に於いては雅典の五百人院と法廷とは毎年一百二十乃至一百五十タラントンを費すことゝ爲れり。民會（Ἐκκλησία）に出席する者の受くる給金は初め一日一オボラスなりしが、紀元前第四世紀には三オボリと爲れり。（前掲拙稿一七—八頁參照）。

雅典は又一種の救貧法的制度を實施し、不具廢疾に由りて生計を取得し得ざる者に扶助を與へ、又父の戰死に由りて孤兒と爲れる者を成年と爲るまで扶持せり。（Ploutarch., Cimon, 10; Aristeides, Panathenaicus, i.I, p. 331, ed. Cant.）。而して第五世紀末、殊に紀元前四百十三年、スパルタ人のデケレーイア占領後に於ける地方人民の廢潰は一層寛大なる制度を採用することを餘儀なからしめ、無能力者に對する給與はリュシアスの時代に於いて一オボラスなりしものが、二オボリに增加せしめられたり。人民に對する一日二オボリの支給たるディオベリア（διωβελία）は雅典の煽民政治家クレーオフォン（Κλεοφῶν）の案出せる所なるが、精確に何人に對し、又何に對して支給せられたるやは明瞭ならず。クレーオフォン及び其の一黨が政權を掌握せる時代に於いて、大衆の生存權は更らに紀元前四百〇九年のエレクティオンの其れを初めとして國家的大建築工事の再開始に由りて承認せられたり。（Cambridge Ancient History, vol. V. op. cit., p. 344; Glotz, op. cit., p. 150.）。

長時に亘れる戰役は又、多くの勞働と資源とを不生產的方面に向はしめ、國土の蹂躙、財產の破壞、農民の窮乏と相俟つて絕大なる損害を與へたり。前述の如く、デモステネスは、雅典人が巨額の軍資金を保有せるに拘らず、之れを祝祭に蕩盡し去れることを長嘆しつゝあり。而も啻だに祭典のみならず、彼れ等の起せる大工事と莫大なる國家的支給とは最も不幸なる結果を招來しつゝありしなり。雅典は其の商業的發展の時代に於いて、大資產が少數者の手中に蓄積せらるゝを見たり。而もペロポンネソス戰役後に於いて、國富の增加は停止せられたり。而して人民は大部分都會人と化して、其の原始的勤儉の風を失ひ、田園への復歸は不能ならしめられたり。雅典の支配階級たる民衆の生活を保證するが爲めには主として國家的支給の制度に依らざるを得ざりしなり。恐らく雅典の政治家は、紀元前三百五十三年「雅典收入論」（Πόροι ἢ περὶ Προσόδων）を著して、私有資本が單に其の所有者一個の富裕を齎すに過ぎざるに反し、國有資本が全市民をして洽く富裕ならしむるの故を以つて、之れに貢獻する所、更らに大なりと觀じ、一種の產業社會化を提唱せるの觀あるクセノフォン（「前史」三七二—二八五頁參照）に從つて、其の國有資本を擴張すると共に、經濟的收益を期待し得可き生產的事業に其の勞働力を使傭す可きものなりしなる可し。然れども、既述の如く、當時の希臘に於いては公經營の行はるゝもの極めて少なく、而して其の少數の公經營は又絕望的に腐敗せり。斯くの如き狀態の下に在つては、賢明なる政治家は安んじて國家的企業の範圍を擴張せんと企圖すること能はざりしならん。

十六

ペリクレスの時代に於いて、既に農業は營利的見地より經營せらるゝに至り、土地を離れたる貧民は都市に群集せり。地方に於いて零落せる小農民は雅典市に於ける賃銀勞働市民の群を膨脹せしめたり。而も都市の工業は彼れの時代に於いても、亦其の後の時代に於いても、未だ是れ等の大衆を雇傭す可き大規模のものたるを得ず。希臘の製造工業は家内及び工場内に於いて行はれたるも、其の大多數は小規模のものなり。二十人の勞働者を一所に集めたるものは可なりに大なるものと看做されたり。仕事は殆んど全く人手によりて行はれたり。雅典人は「活ける道具」即ち奴隷なくして繼續せられ得る工業を想像するを得ずして、最小の工匠も、職人として數人の奴隷を有し、然らざるも、助手として少くも一人の奴隷を有せりと雖も、而も工業奴隷は又、近代的大工場の勞働者の如く、多數者の集團を形成することなかりき。（「前史」二一三—四頁參照）。而して紀元前第五世紀の後半以後に於ける、奴隷勞働による製造工業の發達は漸く自由手工業者の數を減少せしめ、彼れ等の危機を感ぜしめつゝありしも、而も結局、雅典に於ける工匠の大多數は經濟的に自由なるものにして、前述せるが如く、雅典十大演説家の一人にして大富豪ケファロス（Κέφαλος）の子なるリュシアス（Λυσίας）が其の同胞ポレマルコス（Πολέμαρχος）と共に經營せる大製楯場は紀元前四百〇四年に於いて一百二十人の奴隷を使役せりと傳へらるゝも、而も同市に於ける工業の大部分は自由の賃銀勞働者によつて遂行せらるゝ所なりき。

商業は希臘の都市が大と爲ることを得たる唯一の方法なり。希臘諸邦は埃及、バビロニア、アッシュリア又は波斯の如き東方諸帝國に於けるが如き大なる農業的基礎を缺けり。其の商業は工業を以つて之れを裏附けするに依りてのみ獨り維持せらるゝを得しなり。雅典は當に其の代表的なるものなり。吾人が縷説せるが如く、其の自然的資源に依りて安らかに支持せらるゝことを得る以上の人口を有したる同市は、其の輸出する所以上の噸數を輸入せざるを得ざるに至れり。爰に於いて乎、一方に於いては職業上の熟練を發達せしめて、雅典の職人をして原料に加工せしむるに由りて其の重量價値の上に附加する所を大ならしむると共に、他方に於いては、輸送、殊に海運を行ふに由りて、結局其の勤務に對して原料を以つて支拂はしめざる可らず。而も吾人は猶ほ其の外に貿易をして平衡を得せしむる非經濟的方法を觀過す可きに非ず、即ち何等かの形式に於ける貢納の取立是れなり。（Knight, op. cit., pp. 34-5.）。

雅典は世界的市場の確立に努力せるも、而も眞に能く航海の危險、國際關係の不安定、輸送費の不廉、交通組織の不良等に打ち勝つことを得ずして、其の工業生産物の販路を充分に擴張すること能はず、而して雅典の企業家が其の企業を膨脹せしむ可き限界を知り、其の勞働者の數を限定しつゝあるの時、彼れ等の政治家は其の同盟諸邦よりの貢納を財源として、大建築、大土木を起し、以つて庶民に其の職を與へざるを得ざりしなり。「ペリクレスの起せる諸工事は虚飾の其れ以外、何等經濟的目的に資することなかりき。是れ等のものは貨幣に換へられ、若しくは他の國土に輸出せられ、又は更らに多くの富の生産に利用せらるゝこと能はざりき。是れ等のものに充てられたる熟練と財寶とは永久に回收せられず」と觀じ、雅典の最大なる名譽の中に數へらる可き其の大偉業を以つて、其の衰

徴の一原因たらしめたるカニンガム等の聰明なる意見に吾人は多大なる敬意を表するに吝かならざると同時に、又斯くの如き大工事に依りて雅典の多數市民に仕事を與ふるの一事は蓋し當時の情勢に於いて避く可からざるものなりしを認めざるを得ざるなり。事實上、一切の者が悉く國家の支拂を受くるものと爲りつゝあるの時、神を敬ひ、美を愛する國民中の重要部分を形成する技工に對して何等の滿足をも與へずして過ぐることは賢明なる民主的政治家の到底忍ぶ可らざる所なり。斯くてペリクレスは、富者をして國家の負擔に財政的に參加せしめ、又農民に土地を與へんとする社會的目的を以つてせるクレルキァ（κληρουχία）の建設と共に、公の大工事を起して都市を美化し、併せて、總べての工匠に滿足を與へて（未だ彼れの時代に於いては是れ等の工匠を救濟するの必要に驅られたりとは稱するを得ざるも）國内の平和を維持せざるを得ざりしなり。斯くて雅典は久しきに亙りて、幾多の希臘都市に於いて貧富兩階級を分立せしめたる激烈なる鬪爭より免るゝを得しなり。

國際收支勘定より觀たる我國民經濟の世界大戰後に於ける推移

金原賢之助

目次

一　國際收支勘定の有する意義
二　世界大戰後に於ける我國際收支情勢概觀
三　貿易勘定を通じて觀たる世界經濟的關聯の變化
四　貿易外勘定の國際收支上に於ける地位
五　金及び資本の移動に依る國際收支の均衡
六　國際收支勘定に現はれる資本主義的發展形式と我國際收支の均衡形式

一　國際收支勘定の有する意義

一國民經濟が他の諸國民經濟との間に行ふあらゆる收入及び支出は、一括されて國際收支又は國際貸借と名付け